

久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 13,088名

同窓会ホームページ <http://fusetsu-dosokai.com/> 順次更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル『思考廻廊』

7回生のパネル／「四季会 百寿」大石亀次郎

目次

■ 挨拶	第8代会長 吉田清隆	2
■ 挨拶	第7代会長 高橋友作	3
■ 挨拶	学校法人久留米大学 理事長 永田見生	4
■ 挨拶	学校法人久留米大学学長 内村直尚	5
■ 挨拶	久留米大学附設中学校・高等学校校長 町田 健	6
■ 挨拶	後援会会長 井本浩樹	7
■ 支部だより	全国9支部の活動	8
■ 海外だより	小多康顕・洞 幸司・江嶋直人	21
■ 古稀を迎えて	野田照実	24
■ 還暦の会	内藤 光	25
■ 高良随想	松雪 恵津男・飯沼良介	26
■ トピックス	樋口忠治・丸山剛弘・安部政信	28
■ 会務報告		33
■ 卒業生への支援		39
■ 在校生への支援	進路講座	40
■ 大学だより	黒川 直・廣田 礼・萩野貴明・坪山 倫・富重紀貴	48
■ 母校のいま	附設合格状況	53
■ HPご利用手引き		57
■ 母校の新型コロナ対応に向けた寄付のお願い		58
■ 寄付・広告		59
■ 編集後記	同窓会室の紹介	126



同窓会会長 御挨拶

Chart~Challenge~Change!

附設高校同窓会 第8代会長 **吉田 清隆** (23回生)

同窓会会員の皆様、9月26日の総会にて同窓会会長に就任した、吉田清隆（よしだ きよたか、23回生）です。

まずは新型コロナウイルスに日々尽力されている医療関係同窓生の方々に感謝申し上げます。母校である附設中高も一時期休校を余儀なくされ、開校後も時差通学など大変なご苦勞をされていることを校長よりお聞きしました。同窓会活動も各種行事を中止や延期の決断をせざるを得ない状況になりましたが、コロナ対策を十分に行った上で総会開催と会長交代の決議が久留米市内の会議場にて行われました。

私の実家は、高校までは徒歩圏、十三部バス停の近くにあり、久留米市立合川幼稚園、合川小学校、高良山下の良山中学校を経て、高校23回生として中高一貫が始まった中学1回生に合流しました。高校のすぐそばにある若草保育園にも通ったので、幼少期より附設に縁があったのかもしれませんが（当時は御井校舎ですが）。高校3年間のみでは附設を去りがたく、補習科（高校4年）を経て、東大理I、工学部船舶工学科を卒業、商船三井（海運会社）に入社し、リタイア後の現在も子会社社長としてお世話になってます。2010年からの中国事業でオイルメジャーの活動に啓発され、最近では社内、業界でのHSE・MS（健康安全環境マネジメントシステム）啓もう活動に力を入れています。

高校時代は先生や授業以上に課外活動（？）に記憶が残っており、夏には学校のテントを借りて友人数名と甕島、壱岐、五島でのキャンプを楽しんだり、サイクリングで四国経由京都奈良へと遠征しました。補習科時代には、夏休みに浮羽郡の山間のお寺にて朝夕6時の鐘をつくこと、床と庭の掃除を条件に、また近所の食堂に3食提供をお願いし、3人で1カ月の合宿を

やったら、その後成績が急上昇、お寺効果抜群でした。

さて同窓会活動ですが、まずは先輩会長同様に、同窓会規約第2条の「会員間の互助親睦、母校の発展を図る」という目的に貢献すべく、役員共々努力したいと思います。私自身が同窓会活動に（半ば強制的に）加わったのは50才で担当する東京支部総会幹事からですが、当時と比べ、この10年ほどで活動が活発化し大躍進をとげてきたと肌で感じます。この間の同窓会本部支部役員、総会幹事の皆様のご苦勞に感謝します。また情報化社会の急速な発展に応じて、同窓生の業種・職種の範囲も各段に広がったこと、日本のみならず世界各地で活躍される同窓生の話も多く届くようになったことは嬉しい驚きです。同窓生の縦・横のつながり、情報交換、懇親の場が広がるようお手伝いをすることは同窓会役員の大事な使命であり、私自身も、CHARTを描き、CHALLENGE、CHANGEして行きたいと思います。

あと4年強、東京そしてパリのオリンピック・パラリンピック後の2025年は高校創立75周年です。母校では記念事業の準備が始まりました。同窓会としては、まずは本部役員にて「附設2025：高校75周年事業支援委員会」を立ち上げることにしました。同窓会会員の皆様と一緒に最大限の支援をし、お祝いの日を迎えたいですね。

改めてコロナ禍の中で日々医療業務にご尽力されている同窓生に感謝申し上げます。

ご安全に。NOBODY GETS INFECTED.



同窓会前会長 退任御挨拶

会長退任のご挨拶

附設高校同窓会 第7代会長 高橋友作 (19回生)

令和2年9月26日開催の定期総会をもって会長を退任いたしましたので、会報誌面をお借りしご挨拶申し上げます。

平成30年6月、川嶋文信会長の在任中急逝という悲しい出来事があり、その後を受けて同年7月の定期総会において会長に就任いたしました。その時から、故川嶋会長とは同期(19回生)であり、いつまでも会長にとどまるのではなく早期に次の世代に引き継ぎたいと考えておりました。幸いなことに吉田清隆さん(23回生)という逸材に出会い、昨年度より副会長として獅子奮迅の活躍をしていただきました。その取り組みを拝見し、同窓会の更なる発展を担う人材であると確信し後任会長候補と期待していたところ、先日の定期総会で新会長に選任されました。同窓会として誠に嬉しいことと考えております。同窓会は常に多くの課題を抱えており平坦な道ばかりではないと思われませんが、吉田新会長の手腕によって必ずや克服し、我が同窓会は大いに発展するものと考えております。

さて、私の在任中には同窓会の更なる活性化を目指して、同窓会HPを刷新し、また従来から検討を進めてきたWEB名簿を本格的にスタートいたしました。会員の皆様には是非とも同窓会HPを閲覧いただきたいと思っております。WEB名簿につきましては、多くの会員にご自身で情報入力していただくことで、より充実した名簿として機能することになります。未入力の方々にはHPから入力いただきますようお願い申し上げます。

ところで、同窓会の目的は規約に記載されている通り「会員間の互助親睦」と「母校の発展」を図る、ということです。

この観点から同窓会は現在いくつかの課題を持って

います。

「母校の発展」という点では、たとえば新型コロナ禍の中で困難に直面されている母校や生徒に対する支援をどのように行なっていくか引き続き留意していく必要があります。また、5年後に来る母校の75周年事業への協力も今後の重要な課題です。

「会員間の互助親睦」という面からは活発な支部活動が大切であると考えます。このところの新型コロナ禍もあって集まれない状況が続いており難しい問題ですがSNS、WEB会議システムなどを活用し交流を図っていただきたいと思っています。このような活動から同期同士の「ヨコの繋がり」、さらに回生を超えた「タテの繋がり」が生まれていくことを期待します。こういった繋がりには皆様の人生を一層楽しく豊かなものにする手助けになる筈です。附設の卒業生で良かった、と実感できる同窓会を皆で作りに上げて行くではありませんか。

会長として2年余り活動して参りました。どれだけお役に立つことが出来たかは分かりませんが、支えていただいた副会長をはじめとした役員の皆様、各地の支部長の皆様、また日頃から同窓会活動をご支援いただいている全ての会員の皆様には誌面をお借りし深くお礼申し上げます。

末筆ながら母校と附設高校同窓会の益々の発展を心より祈念申し上げます。



理事長 御挨拶

「建学の精神」と新しい時代への期待

学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

1950年創立の附設高校には「国家社会に貢献しようとする、為他（イタ）の気概をもった誠実・努力の人物の育成」、為他の気概とは、人のため世のために正しいことを果たそうとする信念、との建学の精神があります。しかし、1928年創立の久留米大学には「理念」はありますが、明確に「建学の精神」としての言葉はありませんでした。そこで、理念とは別に本学の信念としての「建学の精神」は必要という意見に従い、2019年に、「建学の精神」成文化委員会を発足し、検討を重ね、2019年11月に1930年制定された北原白秋作詞の九州医学専門学校の校歌の一節にある「国主の矜持（ほこり）は常に仁なり」が「建学の精神」に定められました。国主とは、国中のすぐれた名人の意味で、矜持はキョウジと読みますが、白秋はあえて「ほこり」とのふりがなを付けています。

昨今、大学を取り巻く社会環境は、長期間収束しない新型コロナウイルス感染症問題、景気の低迷、少子高齢化問題などで国力が低下し、厳しさ、複雑さを増した変革の時代です。国政も長期政権であった安倍晋三内閣から9月16日に菅義偉内閣に代わり、新しい大臣ポストとしてデジタル庁が設けられ、内閣発足時の支持率が74%と、発足時としては過去3番目の高さです。さて、今後我が国は、ポスト・コロナ時代となり、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる、人間中心の社会であるSociety 5.0の実現に向かって確実に進みます。かかる時代に生きる附設生、卒業生にとって、世の中の役に立つ人物として活躍するには、並の人より優れた人物として成長する

ことが必要です。世の中は変革を担う人物の出現を求めています。つまり、新しい事態に対処しうる人物になることが極めて重要ですが、社会で活躍するには出処進退が最も大切で、出処進退を誤らないためには、不断から、度量、すなわち「他人の言動をよく受け入れるような、広くおおらかな心」を養い、心の中で片時も「仁と義」を失わないように努力しなければならないと先達は述べています。皆さんが附設で「為他の気概」、「仁」の志を矜持として育み活躍されることを大いに期待いたします。



学長 御挨拶

創立70周年を迎え さらなる発展を祈念いたします

学校法人久留米大学 学長 内村直尚

附設高校は1950年に創設され、本年70周年を迎えることができました。これも同窓会会員の皆様の日頃よりの温かいご支援の賜と感謝いたしております。心より御礼申し上げます。

さて、令和という新時代を迎えた我が国は、悠久の歴史と薫り高き文化を継承しつつ、新たな一步を踏み出しました。一方で、人工知能などの技術革新やグローバル化が急速に進み、産業や社会の在り方が劇的に変化しています。情報通信技術の進展、交通手段の発展による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人・物材・情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義が曖昧になるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっています。

このような時代に生きる学生の皆さんには、人間ならではの強み、すなわち、高い志を持って、多様な人々と協働し、新たな価値を創造していくことが求められています。何事も志がなければ始まりません。志を立てることこそが全ての源となります。今まで培ってきた豊かな感性や柔軟な思考力を基盤に、仲間と志を共有しながら努力を積み重ね、よりよい人生を切り拓いていってください。時代の変化を先取りし、順応し、新しい時代に活躍できる人物になるために、不滅の精神を確立し、世の中のため、人のために尽くすことを任務とする社会人、すなわち利他の精神を身に付けて生きていく土台を築いてください。我が国の伝統や文化を尊重しつつ、地域社会や国際社会の平和と発展に貢献されることを、心から期待しています。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、皆さん、仕事、学修、家庭生活など、通常の日常生活を送れない状況にあり、さまざまな面で不安を抱えておられることだと思います。今回のコロナ禍はウイルスが相手です。目に見えない敵なので、より大きな不安や恐怖を感じやすくなります。今後はコロナと共存し

ていく必要があります。ワクチンや治療薬が開発されていますが、私たちの生活スタイルを変えることも大切です。感染防止のためには、密閉・密集・密接を避けること、手洗いやマスクを着けること、人と人との距離をとることなどが不可欠です。また、自分自身のこころのケアとして以下のことを実行してみてください。

1. ずっと緊張し続けると気持ちが張り詰めて疲れてしまいます。頑張る時間とリラックスする時間を分けて、リラックスするときはのんびりと。
2. 睡眠と食事をしっかりとって生活リズムを維持することが、気持ちの安定につながります。
3. ニュースチェックは1日2回など、時刻を決めて接するのがおすすめです。「報道を利用し、報道に惑わされない」ことが大切です。
4. いつも仲良くしている人、家族など親しい人（ペット、物）との交流・つながりを保つため、連絡をとってみましょう。インターネットの力を借りるのもよいです。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で先が読めない状況ですが、答えのみつからない状況に耐えられる能力、これを「ネガティブ・ケイパビリティ」と呼びます。この能力を養うことが人に寄り添い、共感を育む力になり、人間力を高めます。今をピンチと思わず、人として成長できるチャンスに変えてください。自信と誇り、そして他者への思いやりを持って日常生活を送ってください。

今後も久留米大学学長として久留米大学、附設高校および附設高校同窓会の発展に少しでも寄与できるよう励んで参ります。至らない点多々あろうかと存じますが、同窓会会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。



校長 御挨拶

附設高校はいかなる困難をも乗り越え、 逞しく発展し続けます。

久留米大学附設中学校・高等学校校長
(高校23回生・中学1回生)

町田 健

同窓生の皆さまには日頃より温かくまた多大なるご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。本年は3月以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延により休校を余儀なくされ、新学期の開始が6月になってしまいました。開始後は感染症の予防のために、手指や備品の消毒を徹底させる他、中学と高校の通学を別々の時間帯にするために、臨時の通学用バスを1か月間運行するなど、対策のための臨時的経費が必要となりました。この経費の支弁に、皆さまよりのご寄付で成り立っている教育振興基金を当てることを、同窓会よりご許可いただき、無事に初期の対策を乗り切ることができました。また、今後ありうる感染の再拡大への対応と、情報技術の将来にわたる教育への利用の必要性を見越して、情報通信機器の導入を進めるための初期費用につきましても、当該基金を充当するご許可をいただいております。同窓生の皆さまのご理解とご援助なくしては、疫病がもたらす災厄を克服することは困難であったと思います。ご配慮に改めて感謝申し上げます。

状況がいかなるものであれ、附設の教育は弛みなく進捗しております。本年は、東京大学、京都大学、九州大学医学部への合格者がそれぞれ31名、14名、26名と、期待に違わない実績を上げ、教育の輝かしい成果が着実にもたらされていることを実証しておりますし、今年度の高校3年生も、長い休校期間があつたにも関わらず、校内や校外の模試では、全国的にも極めて優れた成績を示しております。来年の大学入試においても、必ずや優れた成果を上げてくれるものと期待しながら、教職員一同、学校教育と運営に邁進しております。

部活動でも、合唱部は昨年福岡県の総合文化祭合唱部門で最優秀賞を受賞し、今年度の全国大会に県代表として出場が叶うほどの素晴らしい活躍をしました。残念ながら、感染症予防のため大会は中止されましたが、今年8月に開催したサマーコンサートでは、出場の際に発表する予定の合唱曲を麗々と歌い上げまし

た。この機会に、本年の東京支部総会で披露する予定であった、高校創立時に僅かの期間だけ存在した4拍子の初代校歌も歌われ、創立後70年を閲した母校の歴史に新たな光を当てることが出来ました。初代校歌を含めて、校歌成立の詳細を明らかにして下さった、高校37回生の丸山剛弘氏には心よりの感謝を捧げます。

ローマの神学者アウグスチヌスの言葉に、次のようなものがあります。

Plenus tali gaudio vacandi et videndi, tolerabam illud intervallum temporis, donec decurret nescio quanti dies erant sed tamen fortiter tolerabantur, quia recesserat cupiditas quae mecum solebat ferre grave negotium, et ego premendus remanseram, nisi patientia succederet.

(Augustius, Confessiones)

自由でいることと見聞することの喜びに満たされて、私はその期間を耐えた、何日間だったか忘れたが、その期間が過ぎ去るまで、力強く耐えた。何故ならば、忍耐がそこに生起することがなければ、大切な仕事を私に課することになっていた願望が消滅し、私は押し潰されたままになっていたであろうから。

(アウグスチヌス『告白』)

附設の自由と学問は、一時的な困難によって停滞するものではありません。すべての構成員が高邁な志をもって試練を力強く乗り越え、更なる光明を呼び寄せるものと深く信じています。そのためにも、皆様方同窓生のご支援を今後とも賜りたく、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

2025年(令和7年)には附設高校創立75周年を迎えます。これを記念して、体育館や学寮の新営、75年史の編纂等の事業を計画しております。新たな時代を輝かしく推進させるべく、母校に対する暖かく力強いご助力につきましても、併せてお願ひ申し上げます。



後援会長 御挨拶

母校の近況について

後援会会長 井本 浩樹 (高校33回生・中学11回生)

今春より後援会会長を務めさせていただいております井本です。中学高校時代を附設の扶桑学寮で過ごし、大学は防衛医科大学校に進学したため、12年以上寮生活を送りました。現在、故郷の佐賀県唐津市で整形外科医院を開業しております。長男が高校70回生として附設高校2年に在学中です。

さて、私の在学中の30年前と比較し、附設の校舎や寮は様変わりしています。男女共学となり、校舎は新築され明るくきれいになりましたが、附設伝統の校舎内土足スタイルは健在です。高校寮も補習科跡地に建て替えられ、日当たりの良い広々とした空間に生まれ変わっています。一方の中学寮は以前の姿と変わらず、廊下も学習室も全く同じレトロな雰囲気のままです。その昔、一斉学習時間中に、両側を先輩方に挟まれた机で緊張しながら勉強し、疲れてついウトウト居眠りしていると背中を突かれ、振り返ると見回り中の緒方教頭だったことが、ふと脳裏に蘇りました。

私の在学中は、寮生が学年の半分ほど占めており、寮内は常に賑やかでしたが、現在は女子生徒の入学や九州新幹線など交通網の発達で、寮生の数は当時の半分以下に減っています。毎晩、男ばかりで大騒ぎしていた時代を思い出すと、少し寂しい気はしますが、息子自身は少数精鋭の環境を楽しんでいるようです。台風であろうと雪であろうと徒歩30秒で通学できた自由気ままな寮生活は、懐かしい思い出です。

今年は、新型コロナウイルスの影響で3月上旬から5月末までの約3か月間、学校始まって以来の長期休校がありました。学校長はじめ教職員の先生方は、オンライン授業対策、宿題プリントの発送や、学校や寮での感染症対策に苦慮され、学校行事も、附設最大のイベントである「男く祭」の中止、部活の大会の中止、体育祭も無観客で開催されるなど、生徒さんや保護者の皆様にとっても負担の多い1年だったと思います。また今夏は、豪雨や台風などの自然災害も多く、休校など授業時間が緊急に変更となる事が何度もありました。先生方には、学生の安全を最優先に考えながらも出来るだけ授業時間を確保したいとの思いから、前日ではなく当日早朝に変更決定を行い緊急メール送信を行うなどご尽力頂きました。

コロナ禍という前代未聞の状況下ではありますが、生徒さんには、自主自立の精神で、制約の中でも大いに楽しみ、どんな状況にも打ち克つ力を蓄えてほしいと思います。

最後になりますが、附設高校中学内には今後改築・新築すべき建物等がまだまだ残っております。大人数を収容する講堂等も必要です。ぜひ皆様のご好意を教育振興基金へお寄せいただければ、在校生そしてこれから入学してくる未来の附設生に、より素晴らしい環境を与える事が出来ると思われれます。今後とも御協力賜われますよう宜しくお願い申し上げます。

校歌

久留米大学 附設中学校
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい
若き血潮の高鳴るを
見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川
高き彼岸の光明を
見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として
築く不朽の真善美
見ずや 我等の大使命

全国各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。

この『支部だより』コーナーでは、
各支部の活発な活動報告をお届けします。

● 福岡支部 ●

福岡支部活動報告
コロナの前と後

福岡支部長 実藤 光二郎 (26回生)

福岡支部の運営は、回生代表世話人会を年2回開催し、各回生及び職域の代表世話人に参集頂き、支部総会をはじめとした活動・取組の各回生への伝達や総会出欠の取り纏め等をお願いしています。

また、県内で、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊・

北九州の6つのOB会が運営されています。これらOB会が地域内の先輩・後輩の繋がりを深め、県内同窓生のネットワークを支えていただいています。

直近（前回総会以降）の活動状況は下表の通りです。

令和1年 9月11日 筑豊OB会	飯塚市 のかみプレジデントホテル 1年半ぶりの開催となりましたが、約30名が参集し、「とにかく明るい」筑豊OB会となりました。
令和1年 10月26日 有明OB会	大牟田市 だいふく 第10回の節目を迎え、「異色の夢二研究家」安達敏昭先輩(9回生)による卓話を頂きました。
令和1年 11月3日 筑後OB会	筑後市 日若屋 「和気藹々」の筑後OB会。このところ久留米OB会に押されがちのため、参加者増に向けた新たな仕掛けを考えていきます。
令和1年 12月14日 回生代表世話人会	福岡市 平和楼本店 「恒例?」の飛び入りは、大家敏志参議院議員(34回生)と先の福岡県知事選で惜敗した武内和久候補(38回生)。終盤に楠田大蔵太宰府市長(42回生)も令和のクリアファイルを携えて登場。 宮原信孝(25回生)さんにも、アフガニスタンで銃火に倒れた中村哲医師について熱く語って頂きました。
令和2年 2月1日 久留米OB会	久留米市 マリターレ創世 恒例の講演は、河村直樹内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官(32回生)に行って頂きました。
令和2年 2月15日 朝倉OB会	朝倉市 里川海 町田校長にも参加いただき、コロナも集合写真も忘れるほどに、盛り上がりました。

もちろん各職域や学内或いは回生の集いも多々行われていることと存じますが、まずは回生代表世話人とOB会を縦糸・横糸とし、県内同窓生の連帯の輪を

広げ、同窓会全体としての活動を支えてまいりたいと考えております。



1日も早いコロナの終息を祈念するばかりですが、令和3年の総会に関しては、坂田新幹事長以下32回生の幹事団にバトンが引き継がれ、準備を進めて頂いております。

オンライン開催といったやり方も考えられましよう

以降は、コロナ後の活動。

ご高承のとおり、新型コロナウイルスの影響で、中止を余儀なくされています。特に、この1年をかけ準備を進めてきた森田幹事長以下31回生の幹事団の皆さまには、労う言葉ありません。

令和2年 3月14日	北九州OB会
令和2年 4月11日	回生代表世話人会
令和2年 7月19日	福岡支部総会
有明OB会・筑後OB会も令和2年は開催中止。	

が、集ってこそその総会・OB会と考えております。

当然、種々の制約はあるやと思いますが、何とか工夫して再開の目途をつけてまいりたいと考えております。引き続きのご支援・ご助力をお願い申し上げます。

● 福岡支部 ●

令和2年度同窓会 福岡支部総会中止のご報告

令和2年度久留米大学附設高等学校同窓会幹事長 **森田 昇** (31回生)

本来であれば、ここで総会・懇親会のご報告をさせていただくはずでした。残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大により中止を余儀なくされました。

総会に向けて久しぶりに同期が集まりました。我々31回生は東京オリンピック開催の年(昭和39年)に生まれ、そして今年、幹事学年の時にまた東京でオリンピックが開催される予定でした。何か運命のような思いと共に準備を進めてまいりましたが、中止となり本当に残念です。

総会へのご協力をお願いするために、各支部・OB会に参加させていただきましたが、こころよく迎え入れていただき、あたたかいお言葉をいただきました。心よりお礼申し上げますと共に、開催できなかったことについてお詫び申し上げます。

来年の総会については、もう一度担当しようとの声もありました。しかし幹事団の皆は公私に忙しい中で

「この一年だけは」と参加し走り続けてまいりました。さらに一年、場合によっては従来と違う形での開催も考えられる中でお願いするには忍びなく、担当をはずれることとしました。来年の担当を受け入れてくれた坂田幹事長と32回生幹事団の皆様には心より感謝いたします。31回生は30回生から総会運営について教えていただきました。32回生の総会開催に微力ですが協力していきたいと考えております。

我々が考えていた企画は中止となりましたが、2回生で附設高等学校名誉校長の樋口忠治先生が附設について同窓生にぜひ伝えたいと仰っていたことがあります。懇親会でお話いただき、または総会パンフレットに載せる予定でした物を、今回同窓会報用にまとめいただきました。お読みいただき、附設創立当初に思いをはせていただければと思います。

●福岡支部●

令和元年度 福岡支部 収支報告書

【収入の部】(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 前年度繰越金	2,516,592	
2. 総会会費	1,887,000	一般 305 名 × 6,000 円、学生 19 名 × 1,000 円、ゴルフ 19 名 × 2,000 円
3. 広告等協賛金	4,887,500	
4. 回生代表世話人会会費	197,000	2018 年 12 月 15 日(52 名 × 2,000 円+1 名 × 1,000 円) 2019 年 4 月 13 日(45 名 × 2,000 円+2 名 × 1,000 円)
5. 同窓会本部補助金	330,000	回生代表世話人会に対して 2018/12/15(163,500 円), 2019/4/13(166,500 円)
6. 預金利息	14	
7. その他収入	540,000	平成 30 年度過払い金・請求漏れ等精算、個人寄付
計	10,358,106	

【支出の部】(単位:円)

費目	決算額	備考
1. 事務費		
事務消耗品費	1,462	
通信費	183,181	広告 DM 印刷郵送費、未済案内状印刷郵送費、広告主礼状領収証/パンフ送付
印刷費	882,366	案内パンフ、広告募集依頼、総会パンフ、出席者リスト、名札
事務雑費	5,416	振込手数料
2. 事業費		
事務処理費	100,000	
会議費	719,278	幹事会・OB 会支部総会等参加費・出務費を含む
OB 会・支部総会へのお祝い金等	198,532	
支部・定期総会	3,924,070	ソラリア西鉄ホテル 3,391,738 円、記念品代 60,642 円、ゴルフ経費 117,690 円、講演料 100,000 円、司会費 54,000 円、バンド 200,000 円
交通・宿泊費	310,270	恩師御車代 8 名 × 5,000 円、東京支部長・幹事長各 45,000 円等を含む
回生代表世話人会	527,000	2018 年 12 月 15 日(268,500 円)、2019 年 4 月 13 日(258,500 円)
3. 翌年度繰越金	3,506,531	
計	10,358,106	

久留米大学附設高等学校同窓会福岡支部の令和元年度収支は上記の通りであり、

その内容は妥当であったことを確認しました。

令和元年 12 月 14 日

30 回生会計幹事

古村 尚 

令和元年 12 月 14 日

31 回生会計幹事

橋詰 洋 

●北海道支部●

令和2年度久留米大学附設高等学校同窓会
北海道支部報告

北海道支部長 檀浦龍二郎 (20回生)

同窓会の皆様お変わりないでしょうか。今年は新型コロナウイルスの感染拡大で、種々活動が制限されています。北海道も2～3月の第1波、4～6月の第2波により、6月に行っていた支部同窓会が開けない状態です。一方7月1日付けで北海道支部規約を発効し、新役員として、支部長檀浦龍二郎(20回生)、副支部長西見寿博(20回生)、副支部長中島泰志(35回生)、副支部長草場鉄周(41回生)、監事桜木修(43回生)で2年間お世話させていただくことになりました。色々お世話になりますがよろしくお祈りします。会員が一堂に会する機会がないため、現況についてお知らせが届いていますので、ご紹介します。

お陰様で、治療を要する疾病もなく平穏な退職生活を送っております
(16回生古賀俊勝)

旭川医大に新設された講座の教授として着任して2年が経ちました。神戸大学との様々な違いに戸惑いながらも、新しく誕生した外科学講座消化管外科学分野の発展に鋭意努力しています。旭川に遊びに来られる機会がありましたら、是非ご連絡ください
(33回生角泰雄)

新型コロナウイルスのおかげで仕事は暇、趣味のスポーツもキャンセルが相次ぎボケてしまいました
(35回生中島泰志)

2019年より日本プライマリ・ケア連合学会の理事長に就任し、プライマリ・ケア診療の質向上、実践者の教育、研究などの学術活動の振興を三つの柱にして仲間と共に頑張っております。コロナに負けず頑張りましょう
(41回生草場鉄周)

今年はコロナの影響もあり楽しみにしていた東京オリンピック観戦がなくなってしまいました。その代わりに家族とのキャンプやテイクアウトの料理を楽しんでいます
(43回生桜木修)

今年度で2年間の医師初期臨床研修が終了します。これを区切として九州に帰ろうかとも考えましたが、やはり北海道が大好きなので、そのまま北海道に残る事に決めました。今年は同窓会が出来ず残念ですが、来年以降OBの先輩方や後輩とお会いできるのを楽しみに頑張っています
(61回生宮本郁未)

大学は前期が終了しオンライン授業にやっと慣れてきたところです。後期も気を抜かずに勉強に励んでいきたいと思っております
(65回生岡田直)



● 中部支部 ●

新型コロナウイルス感染流行下の中部支部活動

中部支部長 **安井 健三** (14回生)副支部長 **荒巻 卓博** (29回生)

中部支部は、平成27年に創設された、愛知、岐阜、三重、静岡に在住の卒業生の集いです。初代支部長は現附設高校校長の町田健先生で、卒業生の相互交流を図っています。

少し前になりますが、昨年11月には第5回総会を開催し、会員の皆様のご健康とご活躍の話で盛り上がりました。写真は、その時のものです。

昨年末に役員が交代したことから、今年に入り、何かしら新たなコミュニケーションを、と考えていた矢先、新型コロナウイルスの感染が拡大してしまいました。そこで、弊支部では「オフライン懇親会」と銘打って、会員の皆様の自己紹介や近況報告を共有しました。たくさんのお話があって書ききれませんが、数例をご紹介しますと、附設高校校歌の作者、大石亀次郎先生の思い出。新型コロナ感染拡大の初期段階でク

ルーズ船感染者の受け入れを勇断された、藤田医科大学岡崎医療センター長の守瀬先生(29回生)への敬意。ソフトバンクの孫さんの高校入学当時のエピソード。数々の海外赴任の思い出。「男く祭」の謂れ。附設カレーの紹介。など、実際に懇親会をしたかのような気分になりました。

11月に予定している第6回総会が開催できるかどうか、見通せない状況ではありますが、今後も中部地区での附設高校卒業生の交流がますます発展し、附設の実力を遺憾なく発揮する機会がさらに増すことを祈って、支部活動を盛り上げていきたいと思えます。

附設高校の卒業生で、中部地区にお住いの方、ぜひとも同窓会中部支部へご連絡ください。

連絡先：中部支部副支部長 荒巻 卓博

e-mail：takrmfstsk@aol.com



令和元年も処を変えて開催しました!!

関西支部長 甲斐田 郁夫 (21回生)



令和元年の関西支部同窓会総会を、令和元年11月29日(金)に開催致しました。総会は大坂肥後橋の住友倶楽部で開催しておりましたが、昨年は同倶楽部の改修工事により、ヒルトンプラザ大阪「四季自然喰処 たちばな」で催し、初の座敷会合にも拘らず盛会でございました。令和元年度も改修工事継続中であったために急遽、大阪中之島の関電会館エルガーデン(関西電力本社4階)での会となり、当時の話題性もあったことから皆様には好評でございました。

当日は、ご都合により町田学校長のご出席はかないませんでした。高橋同窓会長と福岡から岸副会長にご出席いただきました。社会人・学生ほぼ半数の計40名弱を、年代が重ならぬように6テーブルに回生順に順次振り分け、女性の参加学生さんには、1テーブル毎にお座りいただくよう、ご無理を申し上げました。会の進行におきましては諸先輩のご助言により、大学新生全員に自己紹介をお願いし、楽しくユニークな紹介話を聴くことができました。初参加の社会人の方にもご発言をお願いし、開業を間近に控えた気鋭の勤務医の方のたくましい決意も拝聴することができ、総じて和気あいあいの中に終了することができました。当日の写真を添付します。

さて私、甲斐田が友添郁夫先輩から関西支部同窓会運営を引き継ぎまして、早9年となります。数年前までは、年ごとに社会人参加者が微減することに苛立つ日々でしたが、関西支部が、私どものルーツである福岡や日本の中心である東京に参加人員で及ばないのは自明のことで、参加人員の増加よりも、今後会を絶えさせないことの方が大事であると、最近は思うに至りました。さらには、そろそろ私の後をお願いする方を探さねばならぬ時期が来たとも思っております。

本年度は武漢ウィルスのせいで、同窓会活動も制約を受け、とりわけ関西支部の中心となってくれた大学生諸氏も、通学さえ叶わぬ事態となり痛恨のきわみでございましたが、この事態を克服し、来年はコロナ後の新しい時代の同窓会活動を関西に於いても進めていく所存です。

又、同窓生各位におかれましては、関西地区に知己の方がおられましたら、

私・甲斐田宛 taretare_ikutan@yahoo.co.jp

携帯090-9623-8244

にご連絡頂き、関西支部同窓会総会に参加いただきますよう、お口添えをお願いいたします。

● 中四国支部 ●

附設高校同窓会 中四国支部活動状況

中四国支部長 **近藤 治幸** (16回生)

◆ 人の動き

2019年 4月 島根県知事 丸山達也氏(36回生)当選
7月 中国四国厚生局長
大鶴知之氏(31回生)着任

◆ 懇親会

2019年 8月 恒例納涼会
(13名出席。大鶴知之氏(31回生)初参加です。)
11月 「書の会」座右の銘を揮毫しようという有志4名(二回目が未定)
2020年 2月 新年会
(14名出席。内4名の広島大生が初参加でした。)

◆ 支部長交代

2020年 3月末、今田忠則(19回生)支部長が、勤務先の沖縄事務所開設のため、急遽、沖縄に赴くことが決まり、緊急に協議の上、近藤治幸(16回生：理事)が理事兼務のまま、就任することとなりました。

4月以降の状況は、コロナ感染の影響を受け、各地域行動自粛の対応がすすみました。

島根県においては、丸山知事(36回生)の陣頭指揮によるご尽力が顕著であり、中国四国地域においては、大鶴中国四国厚生局長(31回生)のご尽力がありました。

また、大学生も講義や実習がオンラインになってしまっていて、特に1年生は入学以来大学に来る機会もほと

んどなく精神的にも辛い状況にあるようです。附設同窓会としても学生をどうやってサポートできるか、考えていきたいと思っています。

中四国支部定期総会を秋に控えて、丸山知事の初参加を視野に、幹事会で開催準備を進めてはきましたが、如何せん、コロナ禍の影響は止まるところを知らず、諸般の事情を考慮し、来年に延期の決断に至りました。

この機に、WEB開催などの新たな手法が顕著に活用されるようになっていきます。中四国支部でも、会員が遠距離にある幹事会などでは、例えば「zoom」の利用による40分無料の打合せ開催の案(支部長はやり方を知らないので「言うだけ」です)もあり、検討が進められています。(若手幹事さんの活躍の場となるものと、支部長が密かに期待しております。)

それから、他支部の皆さん方にもお願いですが、どうぞ遠慮なく当支部の懇親会にはご参加ください。私も以前、機会があって長崎支部にお邪魔したことがあります。交流の機会を広めてまいりましょう。当支部会員、あるいは、支部長の近藤までご連絡ください。

大歓迎いたします。勿論のこと、費用は自弁となるのを、申し訳なく思うのですが(笑)



年1回、佐賀支部会と芙蓉医会を開催

前佐賀支部長 三根 茂 (17回生)

◆令和元年佐賀支部会

日 時：令和元年8月31日(土) 18:00~20:30

場 所：佐賀市 アパホテル佐賀駅南口「ぎんご亭」

例会では、株式会社エトウ社長 江藤義行(14回生)氏に「米中貿易摩擦とグローバルサプライチェーン」と題し講演して頂きました。株式会社エトウは材木業から始まり、現在は自社のヴェトナム工場で様々な家具を設計製造して輸入し、問屋やメーカー、インターネット販売店に卸し会社を発展させてきたそうです。平成2年日本のバブル景気が崩壊後、大川市の木工業生産額は平成3年頃をピークに減少し家具産業の衰退が始まりました。氏は米中貿易摩擦やグローバルサプライチェーンへの影響を絡め、自社の事業変遷について解説されました。

懇親会では、来賓の町田健学校長および同窓会副会長古賀善彦氏より附設高校および同窓会の近況を伺いました。今回の出席者は13~63回生と幅広い年代の21名の参加者がありました。さらなる若い世代の参加をお待ちしています。

なお現支部長と太田勸評議員は3期6年で退任し、令和2年4月より志田正典(22回生)氏が支部長・理事を小林元太(31回生)氏および中里栄介(34回生)氏が評議員を務め、事務局は引き続き前山英彦(33回生)氏が担当します。

5月8日現在、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発せられており、全国で拡散防止のあらゆる対策が施され、非日常の生活を強いられています。新型コロナウイルス感染症が早く終息することを願っております。

◆第31回芙蓉医会(佐賀県在住医師同窓生の集まり)

日 時：令和2年2月14日(金) 19:00~21:30

場 所：佐賀市 居酒屋シャンリー

佐賀県医療センター好生館脳卒中センター長 杉森宏(31回生)氏に「脳卒中医療 平成から令和へ」の演題で講演をして頂きました。脳卒中は発症後、早期の治療で延命率の向上や後遺症の予防ができ、最新の治療法について解説していただきました。令和2年度定期総会・福岡支部総会は31回生が当番学年で、講演者の杉森宏・島内義弘・楢崎史彦・小林元太(佐賀大学農学部部長、総会で特別講演)・三島伸雄(佐賀大学理工学部教授)各氏が同会への参加をアピールしました。参加者は佐賀大学医学部学生8名を含め42名でした。

なお、今回より芙蓉医会事務局は三根正(51回生)佐賀大学医学部眼科学助教が担当しております。



第31回芙蓉医会



令和元年佐賀支部会

●長崎支部●

令和元年度久留米大学附設高等学校
長崎支部だより

長崎支部長 **安武 亨** (24回生)
幹事 **福田 実** (32回生)

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部が令和元年11月9日(土)に長崎市ホテルニュー長崎の中国料理桃林で開催され、41名が参加しました(平成30年度は38名)。残念ながら延期になっていますが「2020年東京オリンピック・パラリンピック」河村直樹(32回生)の講演会を行い好評でした。続いて支部長が議長となり総会、その後懇親会を行い長崎支部活性化について話し合いました。学生の出席を増やすため平成26年度から学生参加費を無料にしており女性4名を含む14名の参加がありました(平成30年度も14名)。初めての参加者も楽しかったので次回以降も参加すると言っています。次回は同会場で令和2年11月に同窓会を開催予定でしたがCOVID-19の影響で中止になりましたので、令和3年11月13日頃に開催予定です。参加希望の方は幹事福田実 FAX 095-819-7776まで。

長崎県北同窓会として「傘寿還暦お祝い会」が平成31年2月25日ホテルロタスハウスで開催されまし

た。26名が参加し、稲毛昭仁(7回生)、國崎忠臣(7回生)、田川喜代登(7回生)の傘寿、池永英恒(26回生)、松永和雄(25回生)、牟田広毅(25回生)の還暦をお祝いしました。小田英俊(29回生)が幹事を努めました。県北参加者は社会人だけですが活発な活動を続けています。

長崎支部新入生歓迎会が令和元年7月4日(水)ガレッジ酒場で開催されました。24名が参加し、新入生4名をお祝いしました。新入生を皆でサポートしていきましょう。

長崎支部ゴルフコンペが令和元年11月10日(日)に大村湾カントリー倶楽部ニューコースで開催されました。好天に恵まれ参加者10名が楽しみました。優勝の村山直也(52回生)は4回目です。ベストは福島徹也(39回生)で初受賞です。次回は令和3年11月13日に開催予定、参加者募集中です。参加希望の方はゴルフ幹事福島徹也 FAX 095-857-7400まで。



懇親会も取りやめる中、 阿蘇ルートの復活とJR熊本駅前再開発は明るい材料!!

熊本支部長 川崎 博 (16回生)

◆コロナの影響広がる

昨年の会報に熊本地震からの復興が順調に進んでいる、と書きましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に、熊本県南部を襲った集中豪雨被害(7月)が重なり、熊本の経済状況は決して明るいものではありません。コロナの感染者は9月10日現在で550人を超え、九州では福岡県に次ぐ多さです。おかげで、令和2年度は、わが熊本支部の総会・懇親会も卒業生祝賀会も取りやめざるをえませんでした。残念です。ただ、そんな中でも地震で途絶えていた阿蘇ルート(国道57号とJR九州豊肥線)の復活と、JR熊本駅前進む大規模再開発の進展は明るい材料です。

◆令和元年度支部総会と懇親会

令和元年9月29日(日)に熊本市中央区のホテル日航熊本で附設高等学校同窓会熊本支部の総会と懇親会が開催されました。社会人31人と学生14人が参加。まず、逝去された古賀直先生に全員で黙とう。支部長川崎の挨拶で開会しました。恒例のゲスト講演は、TMI総合法律事務所パートナーの葉玉匡美さん(32回生)で、演題は「コンプライアンス～真面目に働いているのに突然転落したケースを参考に～」。

葉玉さんは、実際にあったセクハラ、パワハラを面白おかしく、あるいは参加者一人一人をたしなめるように語り、全員から「役に立つ話だった」と拍手喝采を受けていました。

議事総会では、熊本支部が同窓会組織の中で、本部、福岡支部に次ぐ規模であることが本部理事の江頭有朋さん(30回生)から報告されました。

懇親会は、副支部長砥上幸一郎さん(17回生)の挨拶で始まり、2年続きで駆け付けた同窓会副会長の岸哲司さん(22回生)と3年連続参加の町田健附設高等学校校長(23回生)がこの年の東大合格者が50人に上ったこと、2025年の附設75周年に向け、1号館や寮の建て替え、第2体育館の計画があること、タオルやボールペンなどのグッズが販売されていることなど母校の近況を報告しました。

乾杯の発声は、いつも通り副支部長の片渕秀隆さん(22回生)で、母校で続けている出前授業に関し、あらためて「後輩たちは優秀です」との感想を述べていました。お酒と料理が進み、雰囲気も盛り上がる中、新入学生会員の自己紹介ではいつものように、先輩たちから意地悪(?)な質問を飛ばし、それに懸命に答えようとする新入会員の姿がまた会場の笑いを誘っていました。また、初参加の先輩たちも次々とマイクを握り、近況を報告していました。場所を移した二次会にも多くの会員が参加し、遅くまで「語りの輪」が続いていました。

◆卒業生祝賀会

令和2年3月18日に予定されていましたが、学生幹事の皆さんを中心に話し合った結果、やはり中止ということになりました。卒業生は全部で10人。一人だけ出席予定だった宮崎裕佳子さん(62回生)には後日、名前入りのマグカップが郵送された。学生幹事の古川智裕さん(62回生)は「他の卒業生にも記念の品を贈りたい」と話していました。



東京支部長挨拶



東京支部長
栗木 康幸 (21回生)

本年10月10日に開催された東京支部総会において東京支部長を拝命し小田支部長（現顧問）より職務を引き継ぎました。

今年は早春から続くコロナ禍による社会的・経済的停滞に加え度重なる豪雨による災害が我が国そしてなにより九州地区に襲来しました。

同窓会員の皆様、母校におかれては少なからぬ困難な状況が続いているのではと案じています。

また何らかの被害を受けられた方には心からお見舞いを申し上げます。

東京支部では歴代の幹部の皆様を中心に多くの支部員の献身的な活動の結果、支部総会をはじめとして様々な会合やイベントが毎月のように行われ同窓会活動がおおいに活性化して来ています。

そのような中、2020年度は新型コロナの影響でほとんどのイベントが中止・延期・変則開催などを余儀なくされてしまっています。

例年では300人を超える同窓生が一堂に会していた

東京支部総会も今年はWeb開催となりました。

参加総数は60人程度となってしまいましたが、このようにして何とか形を変えてでも継続していくことが現在の困難な中とても重要なことだろうと考えています。

よく必要は発明の母と言いますが、様々な方が知恵を絞って同窓会活動に協力して下さっている姿を目にして心強く思っております。

最近いろいろなやり取りの中で私として印象に残ったことがいくつかあります。

一つは「推敲の鬼」です。以前からあった言葉かもしれませんが、メンバーから発信する文書が提案されると多くのメールが飛び交いたちどころに合意形成が出来上がる。

もう一つはWeb会議となるとIT技術に異能を発揮するメンバーがいて、知識に疎い我々を指導しながら会議を仕切って下さる。

いずれにしても多彩な同窓会員の協力のおかげで今があると痛感しています。

先のことが予測しにくい情勢ではありますが、お互いに顔を合わせての親睦、母校発展のための議論をするという従来の形に戻れることを願いながらも、アフターコロナではなくウィズコロナ、つまり新しい形も模索していかなければならない2021年になると考えておりますので、本部、福岡支部はじめ多くの会員の皆様と連携して進めて参りたいと思います。

● 東京支部 ●

令和元年度 東京支部総会&懇親会のご報告

36回生幹事長 飯沼良介 (36回生)

日本代表が初の決勝トーナメント進出を決め、日本中がラグビーワールドカップで沸き立つ中、10月19日(土)大手町プラザにおきまして東京支部総会&懇親会が300名強の同窓生を集め盛大に開催されました。

総会では充実した活動内容が写真も交えながら報告され、各決議事項も満場一致で無事可決されました。総会に引き続いて行われた懇親会は、グラミー賞受賞者の36回生脇義典さんと久留米出身のJAZZピアニスト田中菜穂子さんによる“*This could be the start of something*”の演奏で盛大な拍手とともに幕が開けました。今回の懇親会では縦のつながりを意識して、敢えてテーブルを全く関わりない学年の方々に構成し懇親を深めて頂きましたが、附設という学び舎のもとに同窓生がOne Teamであることを改めて認識されておられました。

体育祭の後に行われていた”イブニング附設”を再

現し九州味の出汁で作った豚汁を楽しんで頂きながら、テーブル対抗で人気テレビ番組のプレバトや一本グランプリ同様、懐かしい写真で俳句を詠んだり洒落た一言で競うゲームを行い大いに盛り上がりました。

クライマックスでは、脇さんアレンジのJAZZバージョンの校歌も堪能頂き、恒例の校歌斉唱で同窓生が一つにまとまり無事に閉会となりました。

こうして報告を書きながら昨日のように同窓会の映像が脳裏に蘇りますが、あのようは無事成功に終わったのも執行部の方々のご支援、30回生の福岡の幹事団の方々、35回生の先輩、37回生、66回生のご協力のおかげだと心より感謝しております。36回生の幹事団は1年の活動を通して改めて附設の素晴らしさを感じられたことを私の最後のご報告させていただきます。同窓生の皆様、本当に有難うございました。



●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部

令和元年度会計報告書(令和元年4月～令和2年3月)

会計担当副支部長 深野 章

【収入の部】

(単位:円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,969,468	4/1通帳残1,730,252円+令和元年度会場費前払い190,216円+2018年度新人歓迎会本部補助49,000円
総会収支	757,466	下記【総会収支差額】733,664円+「実際の収入額」と「総会収支」との差額23,802円
利息	21	
計	2,726,955	

【支出の部】

支部会議費	46,952	会合費(役員会)
総会関連費	0	
新人歓迎会	14,420	新人歓迎会に伴う会合費(ゴルフ会でのカンパ87,000円差引後)
附設ゴルフ	20,010	トロフィー代
交流費	66,508	他高の同窓会・久留米つつじ会等への出席
事務費	6,990	送金料、往復はがき代
小計	154,880	
翌年度繰越金	2,572,075	3/31通帳残2,364,765円+令和2年度会場費前払い等207,310円
計	2,726,955	

【総会収入】

会費	2,178,000	62-67回生78名、他228名 合計306名(ご来賓除く)
寄付	600,000	同窓会本部、ご来賓、有志、幹事回生有志、当日募金等
広告	3,440,000	
計	6,218,000	

【総会支出】

会場費	2,317,700	大手町サンケイプラザ 会場費・食事・設備費
交通費	561,460	取材出張・お車代 交通費
冊子印刷代	1,216,418	冊子印刷・取材雑費等、広告関連費用(DM費用・お礼状/領収書費用等)
総会雑費	1,149,178	当日イベント・備品・装飾費用、振込手数料等
幹事会合費	239,580	66回生との懇親会、幹事団懇親会費用等
計	5,484,336	

【総会収支差額】

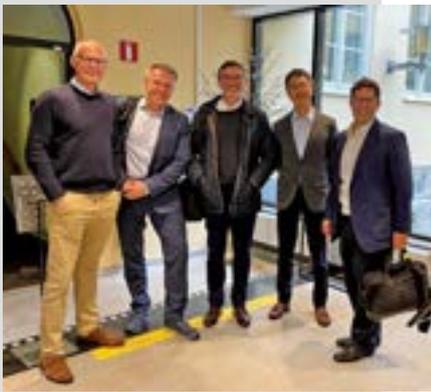
733,664

令和2年度支部活動予算(総会を除く)

支部役員活動費	200,000	会合費(拡大正副会長会、つつじ会を含む)
事業費	200,000	回生代表世話人会、就職セミナー、新人歓迎会等
合計	400,000	

活動報告(令和元年4月～令和2年3月)

2019年4月13日(土)	第18回東京回生代表世話人会(社会人41名、学生3名@新橋亭)
2019年5月11日(土)	第3回附設塾
2019年5月18日(土)	第14回附設東京ゴルフ会(@千葉新日本ゴルフ倶楽部)
2019年5月19日(日)	明善高校関東支部同窓会出席
2019年6月7日(金)	東京支部新人歓迎会
2019年6月16日(日)	南筑東京同窓会出席
2019年7月6日(土)	第19回東京回生代表世話人会(社会人32名、学生3名@新橋亭)
2019年7月20日(土)	第4回附設塾
2019年9月21日(土)	第5回附設塾
2019年10月16日(水)	くるめつつじ会出席
2019年10月19日(土)	東京支部総会(@大手町サンケイプラザ)
2020年10月26日(土)	久留米高校関東同窓会出席
2019年11月9日(土)	第15回附設東京ゴルフ会(@霞台カントリークラブ)
2019年11月16日(土)	附設同窓会就職セミナー
2019年11月16日(土)	第6回附設塾
2019年11月16日(土)	久留米商業東京支部同窓会出席
2019年11月23日(土)	三潁高校東京支部同窓会出席
2019年12月14日(土)	第20回東京回生代表世話人会(社会人31名、学生0名@新橋亭)
2020年1月18日(土)	2020年第1回附設塾
2020年2月4日(土)	広告募集制度委員会キックオフミーティング共催



同僚と取引先の皆さん@ストックホルム

おだ やす あき 小多 康 顕 (37回生)

Executive Director
Europa Capital Partners
15 Sloane Square, London,
SW1W 8ER, UK

1994年東京大学経済学部卒業後、三菱地所株式会社入社。
経理部門、不動産証券化部門、営業部門等を経て、2020年4月より三菱地所が資本参加する上記会社に出向中。

メールアドレス
kmny148@yahoo.co.jp

附設の空気は自由にする

37回生の小多康顕（おだやすあき）と申します。

皆様コロナ禍で様々なご苦労をなさっていると拝察します。小生も大した苦労ではありませんが、今年4/1付でロンドンの子会社出向を命ぜられたものの、ビザの発給中断により東京の自宅よりWeb経由で現地とミーティングを重ね、去る7月初旬によく渡英することができました。

従いまして英国生活はほんの数か月でしかありませんが、多少なり感じとれたことをお伝えしたいと思います。

私は父の転勤で小学6年生の時に福岡に引っ越し、たまたま受験して合格した久留米附設中学に入学、そのまま高校卒業まで扶桑学寮で暮らしました。

卒業後は実家の横浜や東京で暮らしつつ、2001~06年にニューヨーク（以下NY）の子会社に出向し、今回ロンドンに引っ越ししましたので、概ね東京・NY・ロンドンの3都市と青春時代の久留米で生活してきたことになります。

表面的にはカッコ良さそうな都会人になるのですが、NYとロンドンには買収した子会社への出向、すなわち周囲はなかなか言うことを聞かない外国人だらけのアウエーの環境で、気苦労が絶えません。

と、愚痴を書くのはやめて、これまで住んだ3都市を比較してみますと、まずはお金が一番という価値観が分かり易いNY。アメリカ人はエグゼクティブほど本当に良く働きます。出向先でも社長が一番働き者で、誰であれ働いて稼いだ人が偉くなることを体現していました。

東京には皆さん種々の感想をお持ちと思いますが、個人的には、何にせよクールに振る舞い、ガツガツ行動するのはカッコ悪いという見方が強い気がします。大人しすぎても埋没するので頃合いが難しいですね。

そしてロンドンですが、東京とNYの間ぐらいでしょうか。ガツガツお金を稼ごうとするのは恥ずかしいという気風は東京に、移民・余所者でも受け入れてくれる間口の広さはNYに似ていて、際立っているのはワークライフバランスを重視する姿勢かと思います。

世界各国の日本人駐在員の頭痛の種が、締切にルーズなローカル社員だと思いますが、東京は放っておいても残業して仕上げ、NYは残業代は必ずば何とかなる余地があり、ロンドンは何にせよプライベート重視で諦めるしかない！という印象です。

一方で、いずれもメガシティとして余所者が多く独自の文化が形成され、その国の伝統的なカルチャーとは割と異なる（NY見てこれがアメリカと思ったら大間違い）という間接的な共通点があります。

逆に言えば伝統的慣習や束縛から逃れ、自由にチャレンジしたい人が集まるが故にこうなるので、本来の意味とは異なりますが、働いてみると文字通り「都市の空気は自由にする」と改めて思います。

幼少時は引っ込み思案だった私がそんな都市空間で何とかやってこられたのは、余所者に寛容な福岡やバラエティに富みエッジの効いた生徒が集う附設高校に漂う「空気」とある種同じ匂いを3都市にも感じ取れたおかげと感じる今日この頃です。

ところがこの「空気」がコロナ禍で大きく変わる可能性が生じています。ロックダウンによりコミュニケーションがWeb空間に一層集中することになりました。物理的な制約に縛られないものの、デマや中傷など人間関係を阻害する要素も多いこの空間は、大きな可能性を秘めると共に注意深く接する必要があります。

人口集中による環境負荷もあるものの、変化・成長の多くのタネは都市の「空気」から生じてきたのは間違いなく、Webはこれを代替できるのか、それとも社会は停滞してゆくのでしょうか。

何にせよ、今後、変革の担い手は附設高校のような空間にますます期待されるのは間違いなく、母校・後輩を陰ながらも一層応援したいと考えています。

などと勇ましいことを書きましたが、東京では多くの同期・卒業生に、NYでも平野君・洞君・前高西君の何と3人も同期がいて支えられていたところ、当地では同期はおろかOB・OGも見つけられず孤軍奮闘しております。在英附設卒業生の方、是非ご連絡・ご紹介ください！



Seven Sistersというドーバー海峡に面した景勝地



附設シンガポール同窓会メンバーの皆様と（上段左から49回生倉島秀典さん、45回生馬島康誠さん、下段38回生江口公一さん、48回生田中慶介さん、本人）

ほら
洞 幸司 (37回生)

1994年東京大学法学部卒業後、三菱商事入社、法務部、米国Duke大学ロースクール留学、米国三菱商事ニューヨーク本店、本社経営企画部等を経て、2019年4月からシンガポールにてアジアコーポレート事業支援室長としてアジア域内13カ国の総務、人事、法務、ITや地域戦略を統括する業務に従事。

メールアドレス

koji.hora@mitsubishicorp.com



2019年4月開業以来観光客で賑わっていた空港商業施設Jewelの閑散とした現状



2020年9月10日オープンの世界初の水上に浮かぶアップルストアをバックに



コロナ禍直前にホームコースで開催されたSMBCオープン

コロナ禍のシンガポール便り

今年の東京支部総会幹事学年、の洞（ホラ）です。幹事長を引き受ける直前に、シンガポール転勤になり、代わりに引き受けてくれた丸山幹事長を通してお話があり、柄にもなく、海外だよりに寄稿させていただきます。丸山幹事長以下同期メンバーが準備を進めていた総会が中止となったのは残念ですが、70周年記念総会の目玉として丸山幹事長が準備を進めていた「校歌のルーツを訪ねて」が附設高校同窓会ホームページに掲載されていますので、是非ご覧下さい。

さて、シンガポールは、コロナ発生初期の2月には、市中感染の抑制や医療対応の面で優等生と言われていました。3月に入り海外感染者の流入増加、外国人労働者の寮での急拡大を受け、積極的な追跡と検査（人口15%強にあたる約90万人を検査済）も実施したことで、9月末時点で累積感染者が約5万7千人、人口の約1%（日本は約0.06%）ですが、死者は27名、死亡率は約0.05%（日本は約2%）にとどまっています。東南アジアでの医療ツーリズムの拠点となっていますが、コロナ発生当初は外国人も無料で治療を受けられたため、感染者流入が増えたとも言われていました。医療・検査体制の充実やマスク着用の義務化等矢継ぎ早に打ち出される規制と徹底した隔離や監視・違反者摘発により、閉塞感はあるものの、感染リスクを身近に感じることはありません。

シンガポールのコロナ対策には、教育を重視するという国家の特徴も色濃く現れています。ロックダウンに踏み切る前に、まず公立学校でオンライン授業トライアルを実施し準備を整え、学期間の1ヶ月の休暇をロックダウン期間中に前倒しすることで登校日減少を最小限に留めました。更にロックダウン解除時には他施設に先行して一部登校を再開させました。支援策の面でも、政府からの企業や労働者への支援金等は申請手続き無しで、会社や個人の口座に迅速に振り込まれ、マスク配布も既に4回実施、3回目からは自動販売機も導入される等、日本との違いも際立っています。人口約570万人、国土も東京23区程度の小国であり、建国以来一党支配が続いているという政治体制の違いもありますが、危機対応という観点からは日本も参考にすべき点があると思います。

これら対策も功を奏して感染が抑制され、日本を含む諸外国との往来も徐々に再開していますが、この国の象徴で競争力の源泉でもあったチャンギ国際空港、シンガポール航空や国際会議場・ホテル等は極めて厳しい状況にあります。この国のインフラや大型開発を「陰」で支えてきた外国人労働者の劣悪な生活・労働環境にスポットライトが当たり、安価な労働力確保との両立という課題も生じています。コロナ禍で雇用環境が悪化した7月の選挙では「シンガポリアン・コア」政策に焦点が当たり、就労ビザ発給を制限する動きも強まっています。これらを克服し、経済を回復させ、アジアのハブとして外国企業を呼び込みヒトが行き交う活況を取り戻す日が来るのか、今後のシンガポールのウィズ/アフターコロナの打ち手にも注目していきたいと思います。

最後に私の近況ですが、コロナで日本との行き来が出来なくなった影響で、妻と次女（高校1年）を、長女（大学4年）と長男（大学1年）を残していた東京に戻し、初の单身生活となりました。周囲の单身者にはこの機会に料理の腕を磨く人も多いですが、九州男児として男子厨房に入らず、で外食続きです。ロックダウンが解除されてからは、下手なゴルフと最近始めたサイクリングでリフレッシュしています。サイクリングで年寄りの冷や水になることなく、同窓会コンペに参加出来るレベルにゴルフの腕を上げ、同窓会やゴルフ場で皆様とお会いできる日を楽しみにして、シンガポール便りと致します。



江嶋直人 (46回生)

福岡市出身
第一交通産業韓国法人勤務

1999年 慶応義塾大学環境情報学部入学、その後中退

2004年 韓国KwangWoon University 経営情報学科入学、2008年卒業

海外で主にマーケティング業務を行う。趣味は旅行、外国語の勉強(英語、中国語、韓国語)、ドラゴンボート、信長の野望(ゲーム)。現在興味がある事は、ブロックチェーンとMaaS(交通マーケティングや自動運転)

メールアドレス
ejimanaoto79@gmail.com



写真1
ソウル市内
(イテウオン)

写真2
韓国南西部
全州(チョンジュ)



写真3
済州島 世界遺産 城山日出峰(ソンサイルチュルボン)

附設生がソウルに住んでみました

高校46回生の江嶋と申します。現在私は、北九州市に本社がある第一交通産業という会社の韓国法人で勤務をしております。韓国ソウルでは、観光業や不動産仲介業を行っております。私は、2018年に当社に入社し、韓国法人の立上げ及びその運営を行っております。

韓国ソウルですが、日本と時差はありません。また、日本からの移動も東京から2時間半、福岡からだと1時間30分とほぼ国内移動と変わりません。このような地理的な近さから、最近では留学生を始めとして約4万人の邦人が在住しております。

他の海外都市と同じ様に、ソウルでも日本商工会議所や日本人会などの組織、また各都道府県の県人会の活動も盛んです。(私が以前住んだ)シンガポールでもそうでしたが、ここソウルでも福岡県人会(博多会)は最大勢力。海外生活が長い私としては、県人会の参加で故郷福岡のアップデートもでき、海外生活におけるストレス発散の場となっております。

ソウル在住の附設OBですが、21回生の栗木先輩を始め、3、4名いらっしゃると聞いております。コロナウイルスが回復したら、一度“ソウル附設会”が出来たらいいなと思っております。

最後に韓国についていくつかお話しをさせていただきます。“近くて遠い国”と呼ばれ、なかなか理解が難しい国ですが、私の感じた事は以下の通りです。

① 過去10年間ですっかり変わった(特にソウル)

私は2004年から2009年まで5年程韓国に住んでおりました(留学、会社勤務)。10年ぶりにソウルに戻ってきましたが、中心部の再開発が進み、洗練された都市になりました。

またソウル首都圏への人口流入が進み、韓国人口(5300万人)の半分以上が首都圏に集まっております。

森記念財団 都市戦略研究所が2019年11月に発表した“世界の総合都市ランキング”(経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの6分野で複眼的に評価)によりますと、ソウルは第7位(1位ロンドン、2位ニューヨーク、3位東京。大阪29位、福岡42位)となっております。

② 韓国の政治

まず韓国は大統領制という点、その為韓国では大統領に大きな権限が与えられています。また、北朝鮮とまだ戦争が終わっていない点です。この為日本では考えられない個人の権利の抑制が発生する事があります。この権利の抑制が、国の発展のプラスになる時もありますし、マイナスになる時もあります。

例えば、韓国では携帯電話、銀行口座、インターネットサービスの登録など全てマイナンバー(韓国では“住民登録番号”と呼びます)で管理されています。個人情報を提供しないと、日常生活がほぼ不可能です。

この様なデメリットはありますが、デジタル化は非常に進んでいます。韓国ではクレジットカードの利用が推奨され、また政府からの支援も多い為、殆ど全ての飲食店でクレジットカードやデビットカードが利用できます。(日本でクレジットカード普及が進まない理由の一つとして、飲食店などではカード会社からの支払いが1か月後と聞いております。韓国では大体3日程度だそうです)。

また、最近のコロナウイルスでは個人情報保護よりも、公共の利益を重要視した政策がとられています。例えば、陽性反応者の移動経路(何時何分にとどのコンビニに行ったなど)が行政のウェブサイトに開示されます。前述のスマホやクレジットカードなどがマイナンバーでひも付けされており、CCTVなどの監視カメラもいたる所にある為、“陽性反応が出たら、全て(名前以外)開示されるので、浮気もできないよ”と愚痴る韓国人も多いです。

この様に、日本の常識ではびっくりする様な事もありますが、ソウルは全体としては住みやすく、観光にも向いた都市だと思います。現状では、コロナの為、韓国にいらっしゃる事は難しいですが、何かご質問等ございましたらお気軽にご連絡下さい。今回の寄稿を機に先輩方、後輩の皆様とお話しできる事を楽しみにしております。



の だ て る み
野田 照実 (17回生)

昭和26年 2月生まれ (69歳)
昭和51年 京都大学医学部卒
昭和58年 九州大学大学院医学研究科
博士課程単位取得後退学(医学博士)
昭和58年～平成5年
福井医科大学医学部助手
昭和61年～昭和63年
米国NIH奨励研究員 (Fogarty
Fellowship) として
NYにあるRockefeller大留学
平成5年～29年
福岡県内民間病院内科勤務医
平成29年～現在
「心と脳」についての考察を執筆中。

メールアドレス

terumi28@hotmail.co.jp



17回生母校訪問



17回生50周年

我々附設高17回生は 今年度、古稀を迎えます。

我々附設高17回生は1966年4月～1969年3月の在校生で、今年度、皆古稀を迎えます。

入学から3年生中途までは御井校舎で過ごし、7月末に野中新校舎に移り、卒業翌年度に附設中学も開学しました。歴史上唯一、東大入試が中止となった年の卒業でもあります。

高校時代を振り返ると、進学至上主義で体育系部活はご法度、さらに修学旅行も何故か恒例行事に入っていなかった。受験勉強の妨げになる事は極力省くと言う校風でした。それでも我々の学年はサッカー同好会を作ったり、鳥取大山スキーツアーを修学旅行として企画実施したりと、勉強一辺倒ではなく自由を尊ぶ反骨精神を持ち合わせていたと思います。裏を返せば、はみ出し者が目立つ学年だったのかも(笑)。

さて、今年はコロナ禍で、当初5月に予定していた由布院での古稀記念同窓会も中止となったので、代わりに、2年前に久留米で開催された卒業50周年同窓会について、以下ご報告したいと思います。

我々は結構纏まりが良く、10年以上前から、年1回福岡市内で同窓会を開催。そのために、10人前後が集まり、幹事会を開いて準備作業をして来ました。いつも、呼び掛けは古市哲君、会場係は赤司務君の二人三脚です。2018年の卒業50周年同窓会も2人のリーダーシップの下、1年前からたびたび幹事会を招集して、実現したものです。

久留米市野中町・久留米温泉を懇親会および宿泊場所にして、5月27日夕から59名が結集。初めに、14名の物故者に黙祷(物故者は、今日現在4名増えて18名)。

懇親会には町田校長と名和教頭もお招きしました。その際の集合写真を添付しています。

翌5月28日は午前中、母校訪問。名和教頭のご案内で校内を回りましたが、授業風景に女子生徒が居るのは隔世の感ありでした。

また、町田校長から附設高校の進学状況についても説明を受けましたが、まるで我々は孫の父兄として、附設中高入学案内を聞かされた様な気分になりました(笑)。

午後はオプションツアーとして、幹事の私の故郷である大川市へ出掛け、若波酒造で酒蔵見学、続いて三川屋でえつ料理を堪能。

私も大川のふるさと自慢が出来、悦に入りました(笑)。

残念ながら、今年は同窓会開催を見送らざるを得ませんが、来年は是非とも復活を念願しています。

現在の附設中高の校風は想像の域を出ませんが、少なくとも我々の時代の様な灰色(失礼!)の青春生活は消滅しているでしょう。

私は音楽好きで、今でも趣味で音楽を続けていますが、附設高の選択科目芸術は美術しかなかった! もし、音楽が科目にあったなら、私の人生も変わっていたかも知れません(笑)。それにもまして、男女共学だったら、私の青春はもっと違ったものになったでしょう。

最後に、後輩へ贈る言葉。

受験勉強は、否応無しにこなさねばならない必要悪ですが、決してそれに押し潰されない余裕を持ちましょう。私は大学入学後、高校時代如何に読書する時間が無く、教養を広く身に付けなかったかを痛感し、一時、文学書、思想書を読み漁りました。

どうぞ、学校の勉強以外にも好奇心を持ち続け、豊かな心を養って下さい。それが将来の人生に何時かきつと効いて来ますよ!

26回生還暦同窓会開催

ないとう ひかる
内藤 光 (26回生)

昭和35年 3月生(60歳)
 昭和58年 京都大学農学部卒
 同年 福岡県庁入庁
 現在 昨年度をもって退職し県に
 再雇用
 福岡県粕屋保健福祉事務所で生活保護
 ケースワーカー業務に従事

メールアドレス
 hikaru.naito797@gmail.com

2019年11月3日、二日市の大丸別荘にて26回生の還暦同窓会を開催しました。

節目の会ということで、いろいろ考えましたが、結局25回生の先輩方の昨年の企画をほぼそのまま頂くことになりました。幹事は附設同窓会の福岡支部長でもある実藤光二郎君と私の二人が中心となり、東京組は原田稔君、ゴルフ組は内田裕之君にまとめてもらいました。

準備段階でいろいろと要望があり、当日の催しのほかに「大人の作文」と「近況報告集」を作成することになりました。「大人の作文」は中学の担任であった田中博先生を囲む会を2015年に開催した際、中学時代の文集にちなんで作成し先生に贈呈したもので、これで3回目になります。今回も8名の投稿があり、当日ご出席いただけなかった田中先生に、後日お届けしました(残念ながら「評」は頂けませんでした。。「近況報告集」は欠席者5名を含む37名が寄稿。短い文章の中にもそれぞれの人生が盛り込まれていました。

当日は昼間に、ゴルフコンペと学校見学会を実施。恒例のゴルフコンペは夜須高原カントリークラブで16名の参加で行われました。優勝は井本公重君、練習のし過ぎという声もちらほらでした。学校見学会は、特に東京組から要望の声が上がり、白水教頭先生にお願いして実現しました。参加者は15名、初めて見る建替え後の校舎に感嘆の声が上がる一方で、図書館棟やグラウンドとその隣の憩いの森、正門のバス停や丸三タクシーなど、未だに残る昔の名残が、皆を青年時代に引き戻させたようです。白水先生には校内の案内までしていただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

夜の宴会は参加者56名、恩師の田中康之先生にご出席いただきました。かくしゃくとしてお元気で、会を大いに盛り上げていただきました。次回参加も確約いただきました。また所用で出席いただけなかった江上寛治先生からは絵を1枚頂きました。頂いた絵は「附設クイズ」大会で勝ち残った古橋宏明君がゲット、東京に持ち帰りました。同窓会は、これまで福

岡、東京で何度も開催しましたが、卒業以来全くの初参加者が8名おり、皆感無量の表情でした。最後は恒例の校歌斉唱で大団円。指揮は斎藤如由君、斉唱前のいつもの曲の説明「附設の校歌はとても珍しい三拍子」。皆さんお気づきでしたか。ラウンジでの二次会では、高校の合唱大会で歌った歌を皆で熱唱、青春の思い出に浸りきりです。22人の宿泊組はそのままエンドレスで語り合い。四人部屋で寝るなど久しぶりで新鮮だったという感想がありました。





松雪 恵津男 (22回生)

日本開発銀行（現日本政策投資銀行）、
福岡地所(株)を経て現在(株)福岡リアル
ティ勤務

1955年（昭和30年）鳥栖生まれ
鳥栖市立鳥栖中学校卒業
東京大学法学部卒業

同窓会の思い出

高校22回生（中学0回生？）の松雪です。われわれ22回生は全員が高校入学組の最後の世代になります。そのせいか、同窓会報の終身会費納入状況にある卒業生数をみると229名と歴代1位となっています。

高校時代は、勉学面では優秀な中学1回生と比較されプレッシャーを受けながらも、3日間に亘る体育祭をはじめ色々な行事を謳歌した思い出があります。大学卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）に入行、30年弱の勤務を経て、チャンネルシティ等を開発した福岡地所(株)に移り、現在は、チャンネルシティ博多をはじめ31物件、2000億円超の不動産を保有している福岡リート投資法人の資産運用会社である(株)福岡リアルティに勤務しています。

こうした社会人生活をおくる中、2005年、ちょうど50才の時に東京支部総会の当番幹事を務めたことが同窓会活動に携わることになったきっかけと言えます。このときは、22回生のネットワークで当時の安倍官房長官^(注)をゲストにお招きすることができました。その後、55才で今度は定期総会・福岡支部総会の当番幹事を務めましたが、幹事長に祭り上げられ、広告のお願いをはじめ本当に当日ギリギリまで苦勞しましたが、一緒にやってくれた同級生のお陰で本当に良い思い出になりました。当番幹事を経験した皆さんも同じ思いをされていると思います。こうしたことから、同窓会活動に携わることになり、2014年から3年間は福岡支部長を務めさせていただきました。特に当時の長谷川房生会長(13回生)の同窓会への熱い情熱がまだ記憶に強く残っています。

福岡に戻ってきた当時、地元財界の方と話をすると、まず出てくるのは、出身大学ではなく、高校はどこか？ 修猷館、福高、筑紫丘？ といった具合で、なかなか附設は出てきませんでした。お医者さんはたくさんいるけど、ビジネスマンが少ないなあ、もっとネットワークがあればと感じ、その当時、チャンネルシティのオフィスで働いていた同窓生(37回生の平野長暁さん、44回生の花吉哲芝さん、45回生の橋本道成さん)と一緒に附設チャンネル会を立ち上げ、多くの後輩の方とネットワークを築くことができました。一方で、よくよくお話を聞いていると、地元財界でも多くの先輩方が活躍されていました。地元でのビジネスにあっては、こうした先輩がいらっしゃるということほど心強いことはありません。本当に有難かったです。

福岡リート投資法人は東京証券取引所、福岡証券取引所に上場しており、国内外の投資家（いわゆる株主）へのIRも重要な仕事の1つですが、ここでも同窓会が生きてきます。東京の投資家を回った時に、帰り際に、「同窓会報で拝見しました、私は何回生です。」と聞いてびっくりしました。また、別の投資家（金融機関）を訪問した際は、後輩が、投資の責任者を務めており、心強く感じたものでした。皆さん、仕事やプライベートでなかなか時間をつくることは大変かもしれませんが、まずは身近な同級生からさらにはそれぞれの同窓会支部の活動に参加してみませんか？

(注) 前総理大臣 安倍晋三



チャンネルシティ博多



山笠写真



飯沼良介 (36回生)

アント・キャピタル・パートナーズ株式会社 代表取締役社長

慶應義塾大学卒、

1994年 三菱商事株式会社入社

2001年 アントファクトリージャパン株式会社入社
(現 アント・キャピタル・パートナーズ株式会社)

2013年 代表取締役社長就任

中学時代は軟式テニス部、

高校時代は演劇部

八女市出身



ゴルフパートナーの取締役時代に利益率をあげるために発案したプライベートブランド「NEXGEN」

商社から投資ファンドへ

映画「プリティウーマン」の世界

1990年に公開されたリチャードギアとジュリアロバーツが演じた映画「プリティウーマン」をご覧になった方も多いかと思う。ウォール街の実業家エドは買収した造船会社を分割して切り売りして儲けるつもりだったが、コールガールであるビビアンに出会ったことをきっかけに、友好的に買収し企業価値を高める方針に転換したというストーリーだ。まさに切り売りして儲けるのがハゲタカとよばれる再生ファンドで、後者の企業価値を高めるファンドがバイアウトファンドと呼ばれている。一般的にはファンドというだけでも再生ファンドでハゲタカのイメージを持つ方が多いかもしれないが、実は再生ファンドの存在は国内では非常に少なく、多くの企業買収する投資ファンドは企業価値を高めるバイアウトファンドである。買収という言葉がイメージを悪くしているかもしれないが、事業承継や大企業の優良子会社(部門)の切り出しによる財務体質改善などのニーズに応えているのが実態である。因みに鳥類図鑑を、目を皿にして探してもハゲタカという鳥は存在しない。

投資ファンドへの出資している投資家

機関投資家と呼ばれる投資家がバイアウトファンドへの主な投資家で、生損保、年金、大学の寄付金、銀行などがそれぞれにあたる。アジアで著名な機関投資家はシンガポール政府系のファンドのGICやTEMASECで、彼らの過去30年間の平均の利回りは6~7%で、同国の国民の10世帯に6世帯が1億円の資産を保有している源泉になっている。因みにハーバード大学は3兆円の寄付金を利回り17%で運用していて20百万円未満の年収の家庭の子供には学費を免除できる余裕がある。国内では東大が100億円を1%で運用しているレベルなので、アメリカの大学の資金の余裕度には太刀打ちできない状態だ。

企業価値改善へのチャレンジ

皆さんのお馴染みの会社だと本間ゴルフやゴルフパートナーを投資させて頂き、本間ではターゲット層の見直しを行い、商品開発やブランドイメージの刷新、また新しいブランドイメージに合うイ・ボミなどのプロとの契約を行った。ゴルフパートナーでは練習場ビジネスやプライベートブランドの立上げを行い、マザーズへの上場を果たした。現在は東宝シネマズに名称が変わったが、英国ヴァージングループと展開したヴァージンシネマズでは、国内で先駆けてweb予約ができるようにし、収益の柱でもある飲食を伸ばすためにキャラメルポップコーンの販売も開始した。将来地元の八女に戻って中小企業の支援をしたいと考え、20年前に中小企業を対象としたバイアウトファンドに三菱商事から転職したが、投資した企業から感謝の言葉をもらう度に八女に戻るタイミングが先延ばしになっている。



「附設」とは

第八代学校長 樋口 忠 治

久留米大学附設高等学校の「附設」という言葉は、今日ではどこにも使われることがないから、その意味がわからず、附属のことであろうと思われる。その本来の意味をここで明らかにしておくことにしよう。せめて本校の卒業生だけでもそれを知ってほしいと思うからである。

先づ第一に、明治19年4月に新たに中学校令が公布され、東京に第一高等中学校が設置され、同時に第二（東北区）、第三（関西、中国、四国区）、第四（北陸区）、第五（九州区）の各高等中学校が設立されることとなった。翌年、これらの高等中学校に医学部が追加して設けられた。その時の表現に「附設」という文言が使われた。すなわち、同格の部門を追加して設置するという意味である。これらの高等中学校は明治27年の高等学校令によって、それぞれ高等学校に改称された。いわゆる、旧制高等学校である。

附設高等学校をつくることを発案し計画したのは、時の久留米医科大学学長兼理事長であった小野寺直助博士である。小野寺博士は第一高等学校医学コースに学びながら、あえて新設の京都帝国大学福岡医科大学（現九州大学医学部）に進み、後に教授となり医学部長となった後、昭和18年に定年退官。戦後に、久留米医科大学学長に招かれた。

小野寺理事長の県への設置申請書には自筆で、新設

の高等学校では大学（現商学部のこと）の教授に授業を担当させ、レベルの高い教育を行う、と記されている。博士の念頭には、他のどこにもないユニークな新制高等学校を造るのだ、という意気込みが感じられる。従来の医学部、それに新設の商学部「附設」する高等学校は、新制大学と同程度に高いレベルの教育を行う学校にしたい、それが小野寺博士のひそかな念願だったのである。

小野寺直助九州帝国大学名誉教授は盛岡中学から東京の第一高等学校医進コースに進み、卒業時にいったん東京帝国大学医科大学宛てに提出した入学願書をあることから仲間と共に取り下げて新設2年目の京都帝国大学福岡医科大学に出し直したのである。若気の至りであったと後に後悔したかもしれないが、それが小野寺博士の生涯のバネになったと思われる。旧制中学レベルの学校ではなく全く新しい高等学校を造るという発想はそこに根ざしていると考えられる。したがって大学の付属ではなく大学レベルの教育をする附設高等学校でなければならなかったのである。

事実、創立当初は商学部（医学部進学課程などを含む）からの教授たちの授業が多かった。当時の専任は板垣校長（生理学、倫理）、檜崎副校長（英語）、大石講師（漢文）、三原教諭（体育）、近藤教諭（数学）の5人で、他はすべて大学からの非常勤の教授たちであった。磯部（ドイツ語）、江口（生物学）、石津（経

久留米大学



附設中学校 附設高等学校

済学—海上保険論の権威)、長沼(日本史—瀬戸内水軍の研究で学士院賞受賞)、武谷(生物学)、高島(化学)などの他にも、竹村、弥永、守永、初鹿野などの諸氏が来講していた。

しかし、年を追って専任も増え、それにつれて次第に大学からの非常勤の来講も減っていった。創立3年目の後半、1月には小野寺学長に代わって、参議院議員谷口弥三郎氏が学長となり、在京の谷口氏の代理として板垣政参初代校長が学長代理を兼務することとなった。その後は、小野寺博士の意図を理解する者もほとんどいなくなり、大学教授たちの講義も少なくなっていく。こうして、「附設」はそれ以来、有名無実となってしまったのである。しかしながら創設当時、大学教授たちの講義を聴いた第2回生の私にとっては、この「附設」という名称は今なお意義深い。

本校の歩みは小野寺博士の意図どおりではなかったにせよ、今日、わが附設高等学校の生徒諸君の中には、時には東京大学医学部に進む者もあり、また九州大学医学部に進む者もかなりいる。冥界の小野寺博士は、自分の志を継いでくれる人物がそれらの中から出てくるのを、おそらく期待しておいでなのではあるまいか。そればかりではない。その他の進路を歩む者達に対しても、それぞれの分野で将来の日本を背負って立つ優秀な人材となって欲しいということを期待しておられると思う。その期待に応えるべく精進すること

が、本校に学ぶ者とそして教壇に立つ者の責務であろう。

なお付言すれば、本校の校章は小野寺博士が学んだ第一高等学校の徽章「柏葉橄欖」を懐かしんで作らせたものであり、校旗もまた同じく一高の「護国旗」を模したものである。「柏葉橄欖」とは剛毅を表わす樅(オーク)と優美を表すオリーブのことである。小野寺直助博士にとって若き日に学んだ第一高等学校の思い出こそ忘れられないものであり、それを自分が創る新しい高等学校の校章に残しておきたかったのである。校旗もまたしかりである。仙台の二高卒業の板垣先生を始め檜崎二代目校長以下大石、原、世良などの諸校長は、「附設高等学校」の真の創設者である小野寺直助先生のこうした思いを知ることなく去っていったのが惜まれる。

卒業生諸君は以上のような本校設立の歴史的な意義を理解しておいてもらいたい。このような事実を知っていたならば小野寺学長の胸像こそ建てられるべきであったろう。

校歌のルーツを訪ねて(抄)



まる やま たけ ひろ
丸山 剛弘 (37回生)

メールアドレス
t-maruyama@mvg.biglobe.ne.jp

1993年、東京大学経済学部卒、住友海上（現・三井住友海上）入社。営業、通産省出向、商品開発、事務プロセス開発等を経て、2012年より人事部。現在、人事部部長として、人事制度改定を主に担当。

1回生隈正之輔先輩（左）と筆者（右）

2019年10月、同窓会東京支部幹事長を拝命した私は、37回生幹事団メンバーと協議し、翌年10月の70周年記念同窓会は、世代を超えて一つになれる「校歌」を軸としたイベントでお祝いしようと決めて、1回生隈正之輔先輩へのインタビューを皮切りに、校歌の調査を開始しました。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響で同窓会は中止となりましたが、校歌作詞の大石亀次郎先生や作曲の藪文人先生のご遺族・関係者、附設の恩師や先輩方への聞き取り等で判明したことを、「校歌のルーツを訪ねて」という記録にまとめましたので、この場をお借りして概要をご報告させていただきます。全文（全65ページ）は、附設高校同窓会ホームページに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

掲載場所：附設高校ホームページ>同窓会>お知らせ
>2020.10.12 『校歌のルーツを訪ねて』のご紹介

附設の校歌は、開校2年目の昭和26年5月30日に制定されました。大石亀次郎先生が作詞し、大石先生が柳河高等女学校の校長を務められていた時に同校の音楽教諭だった滝田卯夫先生が4拍子で作曲されましたが、歌われることなく、わずか3週間で、明善高校音楽教諭の藪文人先生が作曲された現在の3拍子の曲に代わりました。

ちなみにこの時期、筑邦女子高校の教師だった古田哲先生が、藪文人先生が創設した久留米音楽協会合唱団に入団し、その後スピノフして自ら合唱団を創設しています。

3拍子の校歌はピアノ伴奏無しで歌い継がれていましたが、原譜が無くなってしまい、昭和41年頃、生徒が歌っていた校歌を基に耳コピでの楽譜復元が試みられます。しかし、手書きで復元された楽譜が活字化された際、冒頭の「3/4」の記載や符点が落ちるなど不完全な内容となり、「附設高校二十五年史」等にも、



大石亀次郎先生
(明善校時代)



滝田卯夫先生
(昭和16年頃)



藪文人先生
(昭和23年頃)



古田哲先生
(昭和26年頃)

大石亀次郎先生が作曲を託した 二人の音楽家の軌跡 70年の時を経て蘇った幻の初代校歌と 新たに生まれた混声三部合唱の校歌

2020年8月2日 附設高校合唱部サマーコンサート
(冒頭が初代校歌、2曲目が混声三部合唱の校歌)

<https://drive.google.com/file/d/1MMrpt28f8lEGUNQhBU5q0rLCKE4mScY/view?usp=drivesdk>



不完全なままで掲載されています。

藪文人先生のご遺族のもとに、校歌原譜の作曲資料が残っているのではないかと思います、ご子息の奥様の藪淑子様聞いてみたのですが、藪先生のご逝去後に自宅が全焼し、残されたのは一枚の写真だけということでした。明善高校時代の教え子と笑顔で写っている写真ですが、その教え子というのが、「上を向いて歩こう」などで有名な、中村八大氏です。

このように校歌原譜は灰塵に帰し、オリジナルにお目にかかれることはもはや望めそうにないのですが、不完全な復元楽譜に心を痛めた、藪文人先生のもう一人の明善高校時代の教え子がいました。作曲家の田村徹先生です。

藪文人先生の関係者をたどるうちに田村徹先生に楽譜の話が伝わり、男女共学の現在の附設に相応しい、混声三部合唱の校歌に編曲していただきました。

2020年8月2日、附設高校合唱部のサマーコンサートにて、滝田卯夫先生作曲の幻の初代校歌と、田村徹先生編曲による混声三部合唱の校歌が披露されました。どちらも素晴らしい校歌なので、ぜひお聴きください。(収録先URLのQRコードは上の通り)

今回聞き取り調査を行った大石亀次郎先生、滝田卯夫先生、藪文人先生の軌跡を、ぜひ全文にてお読みいただければ幸いです。

藪淑子様をはじめ、大石家の皆様、武蔵野音大、明善高校、伝習館高校、蒲池中学校、附設の恩師、先輩方の他、非常に多くの方に取材に協力いただき、本当にありがとうございました。

附設高校合唱部顧問の兼行孝幸先生(40回生)および現役高校生の皆様におかれましても、素晴らしい演奏を披露いただき、誠にありがとうございました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



藪文人先生のご長男・博之氏と奥様の
藪淑子さん (2016年8月撮影)



中村八大氏(左)と藪文人先生(右)
(藪淑子様ご提供)

こが すなお 古賀 直先生を偲んで

安部 政信

(東京支部;20回生Cクラス)

古賀直先生が2009年7月開催の福岡支部総会(20回生福岡支部幹事)に寄稿された思い出の詰まった文章(骨子※)を添付いたします(全文はHPに掲載)。

※ 43年目を迎えた教師生活ですぐに 思い浮かぶ出来事10 古賀 直

1. 昭和42年3月 原巳冬校長に呼ばれ木造平屋の附設高校に初めて来校
2. 校技のように盛んだったサッカーを密かに練習 顧問はバレーボール
3. 20回生C組 初担任 不登校の生徒や問題児がいて鍛えられた
4. 23回生の夏のキャンプ「札幌オリンピックの歌」の「直ちゃん」に感激
5. 25回生担当 附設中卒と高校からの混成 耳納連山等生徒と共に奥様もハイキング
6. 昭和50年度 大学入試東大30名合格 週刊誌記事「青天の霹靂」で全国デビュー
7. 31回生 寮生の急増部屋不足 若杉寮や重富寮を探す 下宿数14戸に増える
8. 42回生 沖縄県出身13名 当時の保護者面談は夏休みにも 沖縄での保護者面談
9. 平成14年 2期制への変更とカリキュラムの変更
10. 平成17年 高校共学開始 現在(2009年当時) 58回生C担任 15名女子



古賀直先生葬儀、先生遺影



古賀直先生写真古稀祝い

2019年9月21日に直先生が永眠された。

1943年11月25日にお生まれになり佐賀県小城市牛津町で幼年期を過ごされたようだ。九州大学を卒業後、1967年4月に附設高校の教諭となられた。1970年、先生にとっては初めてクラスを受け持たれたのが我々20回生だった。それから2015年に退職されるまで、生物教師として教鞭を執られると共に、部活動ではバレー、テニス、サッカー、野球、剣道の顧問として、また旧寄宿舎や扶桑学寮の舎監として、附設高校・中学においておよそ半世紀に亘り勤めあげられた。

直先生とは機会ある度にご連絡したりお会いしたりしていた。卒業後何年か経って、先生がご結婚されたとニュースが入り本当かどうか確かめる為に、アポイントも無しに数人でご自宅を突撃訪問した。クラス全員が先生は生涯独身だろうと勝手に思っていたので、BIG NEWSだったのだ。数十年経ってその時の話題になったとき「お前、あんとき何ちゅうたかおぼえちゅうか。」「俺のかみさん見て、『直先生にしては上出来ばい』』というたんぞ。」と。多分「直先生おめでとうございます。」との言葉を言うのがこっぴどかしい青年時代だったのだろう。

2003年11月14日、20回生が幹事学年の時、東京支部総会に恩師代表として直先生をお呼びした。Cクラスの蒲池光久君の妹のゲスト松田聖子さんと舞台上で握手をして本当に嬉しそうだった。

2019年5月26日附設高校での同窓会理事・評議員会が終わって帰路についた頃、携帯が鳴った。「2年後の喜寿祝の集まりに行けるよう、頑張って治療する気力がわいてきた。有難う。」これが直先生と最後に交わした会話となった。久留米大学医学部にて新薬検査入院中の先生からだった。その朝、ご自宅に奥様をお訪ねし20回生の御見舞メッセージを届けたのを受けてのお礼の電話であった。前日にご連絡した際に「みすほらしい姿を見せたくないけん、わざわざこんでよか。」と直先生らしいストレートなコメントであった。その御言葉を尊重して、ご自宅に参上、そして奥様から難病であることをお聞きした。

2019年9月21日私の福岡出張時に先生のご子息亘さん(52回生)から突然の訃報連絡を受けた。早く回復されぜひ喜寿・快気祝いを盛大にやりたいと思っていたのに。しかし直先生が「会いたかけん、来んね。」と福岡にいる私を呼んでくれた。

附設の卒業生は殆どが今でも附設が好きだと言う。その理由は様々であろうが、一つは同じ学び舎で過ごした気の置けない仲間たちとの心地良い輪であり、もう一つは何事にも熱心でRESPECT出来る先生が数多くおられたからだと思ふ。直先生が正にその先生だ。我々20回生とは10歳しか年は離れておらず、生意気盛りの少年相手に大変だったかもしれないが、先生は常に真正面から全力で、授業に、部活に、寮生活の指導にあられた。不安定で危なっかしい年代の我々一人ひとりに、将来の希望を達成するためには、いまなにをなすべきか、教師というより頼もしい兄貴の様に本音で語っていただいた。まだまだ直先生から色んなお話しをお聞きしたかった。沢山お会いできる機会を設けてご一緒したかった。もうそれは叶わないが、直先生の素晴らしい教育者としての生き様は決して我々の脳裏から離れない。

古賀直先生、本当にありがとうございました。

全同窓生を代表して先生に感謝するとともに哀悼の意を表します。 合掌

定期総会報告

副会長 **中村和徳** (27回生)

令和2年9月26日、理事評議員会(於 久留米シティプラザ)が開催され、同日同場所で開催の定期総会にて全ての議案が承認されましたのでご報告します。

◆令和2年度定期総会

以下の議案が審議、承認されました。

1. 令和元年度活動報告

中村和徳副会長(27回生)より報告が行われました。

※ 今年度の広告募集は同窓会報のみとなり、その集まった広告料の大半を新型コロナウイルス感染防止対策で厳しい状況の母校の支援に充当する予定。

2. 令和元年度決算承認の件

岸哲司副会長(22回生)より決算説明があり、一瀬徹夫監事(13回生)より監査報告が行われ、承認されました。

3. 令和2年度予算承認の件

岸哲司副会長より予算説明が行われ、承認されました。

※ 一般会計に「母校支援費」として、2百万円を予算に計上しました。

4. 会長選考委員会報告および会長承認

一瀬徹夫会長選考委員会委員長(13回生)より、選考の経緯説明があり、高橋友作会長(19回生)が任期満了のため、後任として吉田清隆副会長(23回生)が新会長に推薦され、承認されました。

5. 役員の改選

高橋友作会長より、役員の改選について説明があり、承認されました。

尚、副会長については、以下の通り。

新任：田中英治(23回生)、島添隆雄(25回生)、勝連 治(33回生)

重任：砂場泰浩(21回生)、古賀善彦(23回生)、中村和徳(27回生)

退任：栗木康幸(21回生)、岸 哲司(22回生)、吉田清隆(23回生)

6. その他

吉田清隆新会長より、2025年の附設高校75周年事業では、『75周年事業支援委員会』(仮称)を設置し、同窓会として組織的に支援したいとの話がありました。

令和元年度 一般会計収支決算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
【収入の部】				
会費(入会金)	808,000	808,000	0	4,000円×202名
会費(年会費)	3,678,000	3,672,000	△6,000	500円×611名×12ヶ月、500円×1名×7ヶ月、500円×1名×5ヶ月
終身会費新制度分	5,724,000	5,714,400	△9,600	800円×611名×12ヶ月、800円×1名×7ヶ月、800円×1名×5ヶ月、 △返還800円×201ヶ月(前年度転退学者8名分)
終身会費過年度分	300,000	210,000	△90,000	
広告料収入	1,300,000	1,852,500	552,500	
雑収入	0	28,178	28,178	
当期収入合計	11,810,000	12,285,078	475,078	
【支出の部】				
1. 事務費	2,020,000	1,915,348	△104,652	
事務消耗品	10,000	5,687	△4,313	
事務備品費	30,000	0	△30,000	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	150,000	155,918	5,918	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借料
通信費	150,000	94,135	△55,865	インターネット利用料、切手・ハガキ他
印刷費	50,000	35,920	△14,080	68回生会員カード、名刺
事務雑費	30,000	23,688	△6,312	
2. 事業費	9,900,000	8,140,250	△1,759,750	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	650,000	522,916	△127,084	
正副会長会議	250,000	148,585	△101,415	
総会関連支援費	200,000	174,746	△25,254	
支部総会関連(旅費)	300,000	84,588	△215,412	
(寸志)	240,000	180,000	△60,000	
後援会との交歓会	20,000	12,960	△7,040	
回生世話人会議	700,000	864,500	164,500	
役員活動費	200,000	159,738	△40,262	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	405,300	△44,700	文化祭・体育祭援助
部活援助費	390,000	209,084	△180,916	サッカー部30,000円、柔道部30,000円、合唱部30,000円、テニス部29,084円、 軟式野球部30,000円、演劇部30,000円、バスケット部30,000円 ペーパーウェイト205個
卒業記念品代	350,000	356,290	6,290	
進路指導費	600,000	482,480	△117,520	卒業生模擬試験経費援助358,480円、卒業生激励会経費援助124,000円
新人歓迎会補助	200,000	264,000	64,000	
就職セミナー費用	500,000	250,447	△249,553	
校外活動援助費	100,000	0	△100,000	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	700,000	664,680	△35,320	会員管理システム・ホームページ管理料等626,880円、HPリダイレクト37,800円
会報	3,700,000	3,197,630	△502,370	会報誌(10,000部)の作成代、CPP袋印刷、発送料を含む
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	200,000	12,208	△187,792	
事業費雑費	50,000	50,098	98	
3. 予備費	1,000,000	102,352	△897,648	広告制度委員会
当期支出合計	12,920,000	10,157,950	△2,762,050	
当期収支差額	△1,110,000	2,127,128	3,237,128	
4. 特別会計へ繰入(繰出)				
前年度繰越金	3,817,219	3,817,219	0	旧制度終身会費分
次年度繰越金	2,407,219	5,734,347	3,327,128	

在籍数／	1年	202名	9月より転学1名、11月より転学1名
	2年	208名	
	3年	203名	
	合計	613名	

財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	5,732,614円
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,801,733円(引当金および利息累計)
計	8,534,347円

令和元年度 特別会計収支決算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

〔収入の部〕		(円)	〔支出の部〕		(円)	財産目録	
前年度繰越金	179,822,988		貸金庫使用料	25,920	普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	3,967,669円	
一般会計より繰入	(30,000円×7名) 210,000		次年度繰越金	180,039,707	定期預金(筑邦銀行 本店営業部)	156,049,650円	
雑収入	32,639				定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	20,022,388円	
計	180,065,627		計	180,065,627	計	180,039,707円	

終身会費納入状況

2020年3月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	59	195名 30%	33	177	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	59	195名 30%	34	185	217名 85%	50	135	200名 68%
3	67	135名 50%	19	74	205名 36%	35	158	209名 76%	51	157	202名 78%
4	75	153名 49%	20	54	209名 26%	36	175	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	75	211名 36%	37	160 (2)	199名 80%	53	163	199名 82%
6	66	159名 42%	22	79	229名 34%	38	154	210名 73%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	62	183名 34%	39	166	202名 82%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	73	214名 34%	40	123	201名 61%	56	139	205名 68%
9	61	149名 41%	25	99 (1)	220名 45%	41	88	205名 43%	57	144	199名 72%
10	76	150名 51%	26	166 (1)	223名 74%	42	107 (1)	206名 52%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	156	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	173 (1)	217名 80%	44	117	197名 59%	60	131	199名 66%
13	75	165名 45%	29	160	215名 74%	45	132	194名 68%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	177 (1)	212名 83%	46	128	195名 66%	62	139	203名 68%
15	52	161名 32%	31	159	217名 73%	47	119	194名 61%	63	141	199名 71%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	135	197名 69%	64	132	200名 66%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費 会計報告	完納会員(3万円) 7,365(7)名	分納会員(2万円) 10(0)名	分納会員(1万円) 52(0)名
-----------------	------------------------	---------------------	---------------------

令和元年度決算、令和2年度予算に関する補足説明

1. 令和元年度決算

① 令和元年度一般会計収支決算書

〔収入の部〕

- 広告料収入が計画を上回り収入全体の増加に寄与した。
- 終身会費過年度分は計画を下回った。引き続き未納者への声掛けをお願いしたい。
- 収入については予算比475千円のプラスとなった。

〔支出の部〕

- 事務費についてはほぼ予算通り。
- 会議関連費用については、旅費等の抑制で411千円予算を下回った。尚、回生世話人会費は前年度の未請求分の支出があり予算を超過している。
- 在校生等支援費用については、就職活動の状況の変化もあり就職セミナーを1回取りやめたこと

と、部活・進路指導費の申請が少なかったことから予算比622千円のマイナスとなった。

- 同窓会事業費については、会報関連費用が予算比502千円のマイナス、慶弔費の減少もあり予算比725千円のマイナス。

- 支出については、予算比2,762千円のマイナス、前期比1,710千円のマイナスとなった。

【当期収支差額ほか】

- 当期収支差額は、2,127千円の黒字となり、予算比3,237千円のプラス。
- 終身会費過年度収入210千円を特別会計に繰出し、次年度繰越金5,734千円

② 令和元年度特別会計収支決算書

- 当年度収入分を一般会計より繰入れた結果、次年度繰越金は前期比216千円増加の180,039千円となった。

2. 令和2年度一般会計収支予算書

今年度の予算については、新型コロナウイルスの影響で総会を含め行事が軒並み中止になる等見通しが不透明なため、保守的な予算編成としている。

- 収入については、予算策定時点では広告募集に関して不透明な状況であったため広告料収入を計上していない。
- 支出については、事業費は行事の中止を考慮して予算を計上している。
- コロナ禍の中で母校支援のため、母校支援費として2,000千円を計上。従来以上に母校支援の姿勢を明確にした。
- この様な状況であり、収支は1,693千円のマイナスでの予算とした。

令和2年度 一般会計収支予算書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(円)

費目	令和元年度決算	当年度予算	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	808,000	816,000	8,000	4,000円×204名
会費(年会費)	3,672,000	3,636,000	△36,000	500円×606名×12ヶ月(7,356)
終身会費新制度分	5,714,400	5,731,200	16,800	800円×7,356名-800円×201ヶ月
終身会費過年度分	210,000	300,000	90,000	
広告料収入	1,852,500	0	△1,852,500	
寄付金	0	0		
雑収入	28,178	0	△28,178	
当期収入合計	12,285,078	10,483,200	△1,801,878	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,915,348	1,970,000	54,652	
事務消耗品	5,687	10,000	4,313	
事務備品費	0	30,000	30,000	電話器交換
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担
同窓会本部予備費	155,918	150,000	△5,918	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借費
通信費	94,135	100,000	5,865	インターネット利用料、切手・はがき等
印刷費	35,920	50,000	14,080	卒業生に交付するIDカード等
事務雑費	23,688	30,000	6,312	
2. 事業費	8,140,250	7,206,880	△933,370	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	522,916	500,000	△22,916	旅費等
正副会長会議	148,585	150,000	1,415	旅費等
総会関連支援費	174,746	100,000	△74,746	
支部総会関連(旅費等)	84,588	100,000	15,412	
(寸志)	180,000	180,000	0	
後援会との交歓会	12,960	0	△12,960	今年はなし
回生世話人会議	864,500	500,000	△364,500	前年は未請求145千円(福岡)計上
役員活動費	159,738	150,000	△9,738	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	405,300	150,000	△255,300	文化祭中止、体育祭分を計上
部活援助費	209,084	390,000	180,916	30,000円×13部活
卒業記念品代	356,290	360,000	3,710	ペーパーウェイト
進路指導費	482,480	500,000	17,520	卒業生向け模試、激励会
新人歓迎会補助	264,000	200,000	△64,000	
就職セミナー費用	250,447	300,000	49,553	
校外活動援助費	0	0	0	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	664,680	626,880	△37,800	
会報	3,197,630	2,800,000	△397,630	印刷費、発送費
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	12,208	50,000	37,792	
事業費雑費	50,098	50,000	△98	
3. 予備費	102,352	1,000,000	897,648	
3.2 母校支援費	-	2,000,000	2,000,000	母校支援費(新設)
当期支出合計	10,157,950	12,176,880	2,018,930	
当期収支差額	2,127,128	△1,693,680	△3,820,808	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△210,000	△300,000	90,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	3,817,219	5,734,347	1,917,128	
次年度繰越金	5,734,347	3,740,667	△1,993,680	

久留米大学附設高等学校同窓会 令和2年・3年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生
4	東京	19	高橋友作
会長			
	東京	23	吉田清隆
副会長			
1	東京	21	砂場泰浩
2	福岡	23	古賀善彦
3	福岡	23	田中英治
4	福岡	25	島添隆雄
5	東京	27	中村和徳
6	東京	33	勝連治
理事			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
4	東京	19	小田恵介
5	福岡	19	天本敬吾
6	大分	19	藤原公司郎
7	北海道	20	檀浦龍二郎
8	福岡	20	橋本和幸
9	東京	20	安部政信
10	東京	21	栗木康幸
11	関西	21	甲斐田郁夫
12	福岡	22	松雪恵津男
13	東京	22	中村尚昭
14	福岡	22	岸哲司
15	佐賀	22	志田正典
16	福岡	26	実藤光二郎
17	東京	26	原田稔
18	東京	28	高木裕康
19	熊本	30	江頭有朋
20	長崎	32	山縣雅義
21	福岡	34	秋本丈司
22	校内	41	坂田真一
23	校内	45	阿部健太郎
監事			
1	福岡	13	一瀬徹夫
2	福岡	25	矢加部浩一
支部長			
1	山口	10	原好弘
2	中部	14	安井健三
3	熊本	16	川崎博
4	中四国	16	近藤治幸
5	大分	19	藤原公司郎
6	北海道	20	檀浦龍二郎
7	関西	21	甲斐田郁夫
8	東京	21	栗木康幸
9	佐賀	22	志田正典
10	長崎	24	安武亨
11	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	4	丸林茂夫
4	福岡	8	中村晃
5	福岡	11	重永征廣
6	福岡	13	宮本祐一
7	福岡	15	平田三郎
8	福岡	16	中野博
9	山口	16	小野康行
10	福岡	17	武田由照
11	福岡	18	村岡和彦
12	福岡	19	横山晴明
13	東京	20	山下喜弘
14	関西	20	山本伸一
15	北海道	20	西見寿博
16	福岡	21	小林隆利
17	福岡	21	林公彦
18	関西	21	横山俊祐
19	福岡	22	山口博徳
20	福岡	25	宮原信孝
21	福岡	25	川口武壽
22	福岡	25	山口佳秀
23	福岡	26	藤田幸也
24	福岡	27	執行謙二
25	福岡	27	佐々木郁夫
26	福岡	28	吉本幸治
27	中四国	28	田代聡
28	福岡	29	森明彦
29	東京	29	日高雄三郎
30	中部	29	荒巻卓博
31	福岡	30	尾籠博光
32	東京	30	坂本格
33	福岡	31	森田昇
34	佐賀	31	小林元太
35	福岡	34	永田八栄
36	佐賀	34	中里栄介
37	長崎	34	松藤祐次郎
38	東京	35	高尾野健
39	東京	36	飯沼良介
40	福岡	39	古賀篤
41	福岡	41	川野武志
42	福岡	42	楠田大蔵
43	東京	43	深野章
44	福岡	45	橋本道成
45	中四国	45	関太一
46	東京	47	浅枝謙太
47	東京	47	中嶋雅宏
48	東京	50	山口雅彦
49	東京	51	大津良太
50	東京	51	福島智史
51	東京	57	竹下知宏
52	東京	59	尾家杏奈
53	東京	60	岩崎里子
54	関西	61	佐伯洋輔
55	関西	64	廣田律

(敬称略)

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人						
回生	氏名					
1						
2	石橋	義昭	中村	幸孝		
3	安恒	好太郎	大場	清隆		
4	日野	俊二	中村	和正		
5	関	順治	高木	俊夫		
6	野田	尚一	小吹	大学		
7	松本	保正	柿原	大兼	鶴史雄	
8	近藤	英喜	永野	盛吉		
9	城戸	英明	中島	正利		
10	橋本	克己	重永	征廣		
11	今里	哲也	梅野	正裕		
12	大塚	誠清	上江	修一		
13	荒尾	誠也	小村	修生		
14	大福	井英	古澤	敏樹		
15	中河	原哲	朗福	山明		
16	赤司	和彦	山口	浩生		
17	村山	晴幸	武藤	邦弘		
18	横橋	本和	元史	高島	光男	
19	橋本	一瀬	田司	松大	野康	
20	古田	善彦	人	矢加	部浩	一
21	山口	佳秀	新里	祐智	也彦	
22	実藤	光二	高岸	和雅	敏尚	
23	佐々木	郁夫	岡嶋	村下	政敏	
24	江猪	頭秀	茂古	竹見	晃一	
25	佐藤	昇敬	東邊	渡田	八栄	
26	森田	源一郎	司永			
27	坂田	文宏	憲			
28	枝国	一憲	嗣			
29	秋本	津義	長			
30	津福	崎長	憲			
31	眞野	平憲	俊			
32	富時	兼行	孝志			
33	川野	島武	研楠			
34	中島	幸史	将池			
35	陣内	江嘉	花吉			
36	本江	本慎	太郎			
37	岡本	慎太郎	橋			
38	出納	正樹	小原			
39	熊谷	善昭	山口			
40	北島	昭興	山			
41	森山	裕司				
42	熊丸	陽亮				
43	植高	貴寛				
44	千代	田明	久池			
45	佐藤	孝志	服部			
46	橋本	智之	雄			
47	井上	朝雄				
48	大澤	めぐみ	嶋田			
49	足達	咲希	中島			
50	山下	華代	渡邊			
51						
52	小島	尚村	上龍			
53						
54	笹栗	誠田	中雄			
55						
56						
57	富重	紀貴				
58	松崎	広太				

東京支部回生代表世話人								
回生	氏名							
1								
2	加藤	勝文	一郡	透				
3	野田	隆昭	憲	進				
4	柳	昌	佐々木					
5								
6	鹿毛	剛	山ノ内	盛光				
7	武藤	正克	之大	石弘				
8	井樋	英東	戸澤	眞也				
9	星野	英信	雄稲	昌秀				
10	佐伯	敏郎	橋本	雄二				
11	小林	章						
12	柳山	寿夫	阿志賀	雄二				
13	久保	田宙	生					
14								
15								
16								
17	中本	祥一	安宮	永裕	相幸			
18	藏守	俊昭	高橋	友作	小田	惠介		
19	國友	秀世	太田	篤茂	栗木	康幸		
20	安部	政信	大隈	野篤	史弘			
21	砂場	泰浩	新持	松和	力考			
22	中村	尚昭	齊藤	原彰	宏明			
23	吉田	清賢	一稔	古橋	羅豪	古川	幸稔	
24	田中	浩司	德上	賀智	之格			
25	原田	和裕	古大	村正	一章	松田	聖路	
26	中村	高裕	三郎	佐吉	開一	末永	和治	
27	高木	雄三	信也	大村	和正	勝連	之彦	
28	日高	達誠	也造	佐藤	開高	田中	昭彦	
29	唐澤	達信	坂本	和正	章一	勝連	之彦	
30	北島	誠也	大佐	藤開	高士	健正	飯沼	良介
31	内山	内修	大吉	阿部	高士	健正	飯沼	良介
32	木内	宏記	阿部	高尾	野健			
33	工藤	宏郁	太郎	高尾	野健			
34	小宮	山郁	太郎	高尾	野健			
35	堀	達也	真栄	城正	飯沼	良介		
36	洞	幸司	松本	義久				
37	植木	正光	高井	良輔				
38	福山	泰平	古門	成雄	介宏			
39	加藤	寛二	相部	任周	宣宏			
40	白木	淳司	見山	満口	桂右			
41	清田	陽章						
42	深野	晃伸						
43	秋本	雄一郎						
44	中村	知明	伊藤	藤周				
45	宮田	謙太	中嶋	雅宏	光成	洋二		
46	浅枝	川太	泉建	太郎	吉岡	宏起		
47	平川	田秀						
48	牟田	雅彦						
49	山口	良太	行時	直也				
50	大津	健人						
51	喜多	村健						
52	梅井	正裕	大椿	征爾				
53	田邊	航平	五十嵐	丈鑑				
54	山本	麻理	恵安	丸佑	平佳			
55	光安	大典	宮尾	采恵				
56	石田	兼佑	亮中	島家	杏奈	為近	峻太	
57	廣城	戸祐	亮一	尾三	原裕	介井	手俊	
58	畔柳	仙太郎	山本	舜介	江崎	隆一郎		
59	川野	秀太郎	坂口	華奈	子			
60	富永	勇貴	上田	川弦				
61	入江	啓介	古川	敦大				
62	平松	昂白	地立					
63	石川	惣一	朗杉	原菜	月大			
64	下山	拓光	山崎	裕				

福岡支部職域代表世話人	
福岡市役所	
33回生	本村和也
九州電力	
37回生	平野長暁
西日本鉄道	
36回生	上野潔
福岡県庁	
38回生	豊村謙治
福岡銀行	
45回生	小澄洋光

東京支部職域代表世話人	
霞が関等附設芙蓉会	
21回生	青沼隆之



コロナ禍における東京支部の 「若手同窓生」コミュニケーション

大津良太 (51回生)

東京支部 副支部長

例年、新大学1年生(新人歓迎会)、大学二年生(新人歓迎会幹事)、大学三年生(就職セミナー)、大学四年生(就職セミナー事務局)と各年代それぞれにコンタクトポイントを設け、継続的な同窓会活動の入り口である大学生とコミュニケーションを取ってきました。コロナウイルス対応は、当然事務局メンバーも初めてのことで初動が遅くなってしまった部分はありましたが、様々な対応を行いましたのでご報告致します。

また、本年の反省を生かし、若手同窓会活動の中心的な存在である「就職セミナー」に関しては、既に新生活様式対応企画の準備を鋭意進めております。また、同窓会として接点が薄くなってしまいがちな世代(25歳~35歳)向けのコミュニケーションの場を創設すべく議論を開始しております。

こんな時代だからこそ、「和而不同」の精神を忘れず、30代メンバーにて同窓会を盛り上げられるよう尽力して参ります。

【就職セミナー】

◆第一回：2019年11月16日(土) 13時~17時 (+懇親会)

@TIME SHARING渋谷青山通り

学生参加数：21名 事務局若手社会人：13名

ここ数年、学生会館(神保町)にて開催していた就職セミナーですが、よりイノベティブなイメージの空間、かつ学生の交通の便が良い場所にて行いたいという思いで渋谷にて開催しました。

竹下知宏さん(57回生)を中心にセミナーを実施し、学生が自ら考え発信し、議論することで、自分自身の将来について真剣に向き合うきっかけ作りをすることができました。

懇親会には「附設塾」終了後の、大先輩方も集結していただき、学生たちを激励していただきました。

◆第二回：2020年3月28日(土) 13時~17時 (+懇親会)

@TIME SHARING渋谷青山通り

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

事務局としても中止は初めてのことで、しばらくどのように学生フォローをすべきか苦慮しておりました。学生側から苦戦している連絡を頂いたことで、「オンライン面接」が主流な世の中らしく、「オンライン就職相談」「オンライン面接練習」を実施しました。対応した学生からの満足度は非常に高く、内定に繋がったとのことでした。

本年度は個別の対応のみになってしまったことが反省点です。来年以降、体制を整えフォローしていきたいと思えます。

【新人歓迎会】

例年6月に実施しているが、本年度は中止。代替案は検討中。

【学生対応全般】

現役学生数名とオンラインや電話を活用し会話しました。皆、コロナ禍でも忙しく大学生活を送っていました。親御さんのサポートもあり、東京支部としてコンタクトした学生数名では特に困った様子はなかったと思います。(外に出られず辛い、大学で友達ができるか不安など些細なものがありました)

現状もオンライン授業が続いている学校がほとんどですが、引き続き学生の様子をウォッチし、必要に応じ同窓会としてサポートできることがあれば対応したいと考えています。



就職セミナー風景

令和元年度 進路講座

昨年も11月2日、11月9日の二日間にわたり、14名の講師の先生方に御来校いただき進路講座を開催いたしました。講師の先生方と進路講座のお世話をさせていただきました同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。受講した中3、高1の生徒達の感想文の一部をご紹介しますことができます。



第1講座(企業・金融) 飯沼 良介 先生

せっかくの人生 仕事も大いに楽しみましょう!!

第2講座(企業・広告) 尾家杏奈 先生

広告代理店女子という生き方
～30秒に込められた汗と涙～

第3講座(企業 コンサルティング) 福田 綾子 先生

可能性に満ちた今だから知ってほしい、
キャリアの分岐点

第4講座(司法) 森 博 先生

理系の法律職「弁理士」の仕事について

第5講座(行政) 田中 良典 先生

人と環境を守る。環境省での国家公務員の仕事

第6講座(医療・研究) 江崎 泰斗 先生

がん医療と臨床研究の魅力

第7講座(医療) 井川 掌 先生

これからの医師に求められるもの
—泌尿器科医の立場から見た医療の近未来—

第8講座(企業・食品) 中野 啓太 先生

デジタルの時代を生き抜く

第9講座(企業 メディア) 陶山 桃子 先生

"マスコミ"という仕事

第10講座(企業・起業) 武谷 啓 先生

起業と価値創造 自分の人生をまじめに考える

第11講座(行政) 諸岡 健雄 先生

見るまえに跳べ

第12講座(教育・研究) 吉瀬 竜二 先生

One for all, all for one. 信は力なり

第13講座(生命科学) 東 登志夫 先生

血管の中から脳の病気を治療する
(脳のカテーテル治療)

第14講座(医療) 山家 華代 先生

医学部に入る前に知ってほしいこと
—新米医師の目線から—



飯沼良介

先生(高校36回生/アント・キャピタル・パートナーズ㈱ 代表取締役社長)

11月2日(土) 第1講座 企業・金融

せっかくの人生 仕事も大いに楽しみましょう!!

講義の感想

飯沼先生の講演を聞き、見ている世界の広さと事業の規模の大きさに圧倒され、己の小ささと無知を思い知りました。

優れた技術を持ちながらそれを十分活かしていない中小企業の経営を磨き上げて業績を上げ、企業価値を高める、という仕事に大変魅力を感じると共に、投資ファンドのこうした働き必要性を強く感じました。その過程において、投資先の企業と信頼関係を築き、全力で経営支援をされる様子に感銘を受けました。

講演を通して、自分の将来の夢やビジョンを持った上で、毎日を充実させることがいかに重要かが分かりました。そして、飯沼先生がご自身の仕事にやりがいを感じ、心から楽しんでおられるということがひしひしと伝わって来て、私の仕事観が大きく変わりました。

た。特に印象的だったのは、「人生の評価は他人ではなく自分がするものだ」という言葉で、このことを胸に刻み、自分の道を選択していこうと思いました。

文: 高1 溝口友紀子



尾家杏奈

先生(高校59回生/㈱博報堂 食品・外資家電・ペットフードメーカー担当営業)

11月2日(土) 第2講座 企業・広告

広告代理店女子という生き方 ~30秒に込められた汗と涙~

講義の感想

今まで講座を受けた中で初めての女性の先生で一番年齢に近い先生だったので自分の進路の決め方についてより身近に感じられて、自分が将来何をしたいのかじっくり考えることができました。とても明るくて、寮長に立候補して寮内新聞を立ち上げるなど行動力もある方だからこそたくさんの方が目にして影響を受ける素敵なCMが作れるのだなと思いました。日頃何気なく見ていたCMには人々の生活を楽しいものにしてクライアントの意向に応えるための工夫がたくさん詰まっていたことを知って、人が一生懸命作るものには何かしらの意図や願いが込められていることに気づきました。営業は会社とクライアントの板挟みにあうことがあって大変だが相手の立場になって気持ちを掘り下げて考えることで乗り越えているとおっしゃっていました。人と触れ合うときの心がけが今まで分から

なかったけれど相手に寄り添うことが大切で、それが仕事で人を幸せにすることにも繋がるのだと学びました。

文: 高1 永野 杏子



福田綾子

先生（高校59回生/㈱リクルートキャリア キャリアアドバイザー(元㈱ポストンコンサルティンググループ シニアアソシエイト)

11月2日(土) 第3講座 企業・コンサルティング

可能性に満ちた今だから知ってほしい、キャリアの分岐点

講義の感想

いつか経営者になりたいと漠然と考えている私にとっては、とても参考になる講義でした。起業には様々な業種を知ることが大切だと思っていたので、元々コンサルティングには興味を持っていました。福田先生の「目指すものが次々に変わっていった」という話を聞いて、選択肢はいつか必ず1つに絞らなければならない訳ではないと分かり、少し安心しました。それと同時に、「キャリアデザイン」は本当に大事だと感じました。自分の目指しているものに必要なものをいつまでに手に入れるべきか。それを考えるためには、まず社会を知り、その職業について深く理解する事が大切だと分かりました。そのために今は、自分は何が得意で、何をしている時が楽しく充実しているのかを、自分自身が把握する必要があると気付きました

た。私はこれから少しずつ人生設計を考え、例え計画通りにならなくても臨機応変に対処し、また目標を目指していける人になりたいです。

文：高1 鮎嶋 俊哉



森 博

先生（高校41回生/森特許商標事務所(代表弁理士)

11月2日(土) 第4講座 司法

理系の法律職「弁理士」の仕事について

講義の感想

私は進路講座を受ける前は弁理士という職業について何も知らなかったのですが、森先生が具体例を挙げてわかりやすく説明してくださったので、法律に疎い私でも弁理士という職業について知ることができました。弁理士についてのお話の中で、度々「知的財産権」というものが出てきましたが、以前の私はそんな法律がなければ技術を共有できるのではないかと簡単に考えていました。しかし、それが適切に保護されないことで、新たな知的財産を生み出す意欲が低下するというのを聞いて、知的財産権がいかに重要な法律か、そして、その専門家である弁理士がいかに重要であるかを知ることができました。今回の講座を通して、法律の重要性を実感し、それに対してかつてないほどの

興味がわきました。これを機に、法律について積極的に学び、今後の生活に生かしたいと思いました。先生のお話を聞くことができよかったです。お忙しい中、私たちのために来てくださりとても感謝しています。

文：高1 田中 路真



田中良典

先生(高校36回生/内閣府政策統括官(原子力防災担当)付参事官(総合調整・訓練担当))

11月2日(土) 第5講座 行政

人と環境を守る。環境省での国家公務員の仕事

講義の感想

「官僚＝仕事はできるが堅苦しい」というステレオタイプを私は持っていたのですが、田中先生のお人柄



の良さに了見違いだと分かりました。田中先生が行われてきたことは、どれも大学時代までの経験がもとになっているように感じ、いかに20代までの期間を外に関心を向けて活動するこ

とが大事か、ということを感じました。環境庁・環境省での温暖化対策事業や水俣病・アスベスト患者の救済措置などは事実としては知っていましたが、その現場で動いている人の存在は自分の身からは遠いところにありました。今回、先生のお話からその現実を近く感じたとともに、自分が社会問題を深くは知らないことに気付きました。今後、文献や新聞から勉強していきたいと思います。この講座を通して、私は何事にも誠実に対応することの大切さを感じました。それは人の根底を形作るものであるだろうし、内側から滲み出てくるものでしょう。どの分野に行こうとも、人からの信頼に足る人になりたいと思いました。

文：高1 松浦 侑菜

江崎泰斗

先生(高校30回生/九州がんセンター 臨床研究センター長、腫瘍内科医)

11月2日(土) 第6講座 医療・研究

がん医療と臨床研究の魅力

講義の感想

私は、父親が医師ということもあって医療関係の講座を受けたいと思い、今回受講させていただきました。今日の日本において最も身近な病であると言っても過言ではないガンに最前線で向き合われている先生のお話を聞いて、医師という職業には大きなやりがいがあるということだけでなく、同時に医師になるには強い覚悟が必要であるということも学びました。医学は日々進歩しており、以前では治らないとされていた病も治すことができる。しかし、その分人間にかかる負担が大きくなるのも事実で、予測不能の副作用に苦しめられる可能性もある。そのような状況で、患者の精神的な負担を軽減するのも医師の重要な任務であると先生はおっしゃいました。私はここで、医師の仕事は単純に患者が抱える病気を治すだけではないということを実感させられました。そして将来的に、就く職

業を問わずかけがえのない一つ一つの出会いを大切にしたいと強く感じました。

文：高1 浅海敬一郎



井川 掌

先生（高校30回生／久留米大学医学部泌尿器科学講座）

11月2日（土） 第7講座 医療

これからの医師に求められるもの —泌尿器科医の立場から見た医療の近未来—

講義の感想

今回の講座でお話を聞いて一番興味深かったのは医療の進歩とその技術です。ロボットによる治療が行われており、全国に普及しつつあることを知らなかったのととても驚きました。また、実際に通常の治療とロボットによる治療の動画を見せていただいてロボット治療の精度が非常に高いことに感動しました。これから治療や診断にロボットやAIが使われていくと思いますが、それらを使うメリットだけを考えるのではなくデメリットについても考えていきたいです。今回、

先生のお話を伺って、自分自身が現在の医療について知らないことがとても多いことに気づきました。これからはニュースや本などで積極的に情報を得ていこうと思います。また、医療は日々進歩し続けていることを知り、医学部を目指し医者になると決める際には覚悟をもって決断したいと思いました。医療の現場に携わる先生に実際にお話を伺うことができとても貴重な経験になりました。

文：高1 高園 紗寧

中野啓太

先生（高校36回生／日清食品ホールディングス株式会社 情報企画部 次長）

11月9日（土） 第8講座 企業・食品

デジタルの時代を生き抜く

講義の感想

「デジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術が人々の生活のあらゆる側面を変化させ、影響することである。」これは2004年にスウェーデンの学者が提唱した概念である。近年のデジタル技術の進歩は著しく、世界中の人々の生活が劇的に進化してきた。例えば中国の飲食店では、QRコードを客がスマホで読み取り、注文から会計まで行える技術がすでに実用化しているようだ。そのため、徹底した省人化、顧客の情報のマーケティングへの活用が可能になり、売り上げ増加につながっている。また、アメリカではIT分野の投資が年々増加しており、工場の無人化などを実現した。

このように、デジタル技術は人々の生活に密着しており、企業にとっても重要な競争分野であるため、こ

れからも急速な発達が予想されている。私はこのことを今回の講座で学び、テクノロジーの変化に対応できる柔軟性を身につけなければならないと感じた。

文：高1 青木 遙哉



陶山桃子

先生(高校58回生/日本放送協会 放送技術局報道技術センター中継部所属)

11月9日(土) 第9講座 企業・メディア

"マスコミ"という仕事

講義の感想

陶山先生は幼いころから医者に憧れ、医学部に進むつもりで附設に入学されましたが、自分にはそれほど医者になりたいという熱意がないと気づき、はっきりとした進路希望を持たずに進学振り分け制度のある東大に志望を変えられたそうです。私自身、興味のある分野はあってもキャリアビジョンは全く描けておらず、そのことに不安を感じていましたが、これから様々な経験をしていく中で見つけていけばいいのだと感じ安心しました。そして同時に、東大で学びたいという思いが強くなりました。また、在籍していた工学部での研究内容とはあまり関連性がなく知識や経験もほぼゼロの状態、興味があったという放送業界に入って充実したやりがいのある仕事をされているということで、入った学部が必ずしも職業に直結するわけではないとわかりました。私も、これから先数年間、

自分の興味関心を意識しながら、自身の将来の可能性を狭めない選択をしていきたいと思います。

文:高1 丸田 実夢



武谷 啓

先生(中学8回生・高校30回生/エイチアールワン株式会社 代表取締役社長)

11月9日(土) 第10講座 企業・起業

起業と価値創造 自分の人生をまじめに考える

講義の感想

武谷先生は、一橋大学を卒業後、銀行に勤めたのち、エイチアールワン株式会社を立ち上げられました。今回の講座では、①自分の人生の生き方を早く意識する、②人生を豊かにする生き方を自ら選択する、③そのために必要なことを「自分の頭」で考える力をつける、という3点をテーマにしたお話を伺いました。特に、武谷さんが銀行勤め時代に経験した通産省出向のお話が興味深く思われました。挫折そうになった時の支えとして、①やろうとしていることは、正しく、必要なことだという信念、②応援してくれる人との出会いと影響、③わくわく感、を挙げられ、仕事と向き合う武谷先生の意気込みと誠実さが感じられ感銘を受けました。講座内では、「リーディングザレボ

リューション」という、仕事に参考になった著書や「計画的偶発性理論」というキーワードなどが紹介され、興味を惹かれる内容でした。講座を通して、自分も積極的に社会に貢献できるようアプローチしていく武谷先生の姿勢を参考にしたいと思いました。

文:高1 松元 章浩



諸岡健雄

先生（高校36回生／MSD株式会社 執行役員）

11月9日（土） 第11講座 行政

見るまえに跳べ

講義の感想

諸岡先生は京都大学医学部に入ったものの、いくつかの点で自分は医師に向いてなかった、とおっしゃっていました。その上で医学部は特に現在医師になるための職業訓練校となっているという話をして下さいました。この話は私に大きなインパクトを与えました。というの



も、以前の私は医師になりたいと思っていましたが、最近より多くの人を助けることができる方法があるのではないかと思うようになっていたからです。それでも自分が医療系の分野に進みたいということは変わっていませんでした。しかし、医師にならずにビジネスなどをしていきたいなら医学部には行かないほうが良い、という諸岡先生の話を聞いてなるほどと思いました。自分の進みたい分野を考えるに理系を選択しようというのは変わりませんが、高3になったとき受験する学部について考え直そうというふうに思いました。最後になりますが、以上のようなきっかけを得られて本当に良かったです。と思います。

文：高1 山中 心源

吉瀬竜二

先生（高校30回生／福岡市立西陵中学校 校長）

11月9日（土） 第12講座 教育・研究

「One for all, all for one」 「信は力なり」

講義の感想



先生という職業についての話、様々な本の紹介、日本の未来についての話などを聞くことができ、有意義な一時間でした。講義の導入となった「創造的な思考」が全体の話の軸になっており、その後の説明をうまく理解できました。本の紹介では、その

本の内容を非常に簡潔に、わかりやすく説明され、前に本屋で見かけた落合陽一氏の本も紹介されていたので、今度読んでみたいと思います。働き方改革や反知性主義、5Gの社会など今までなんとなく知っていたものについても詳しく学ぶことができ、そのうえで、AIの進出とともに弱まっている共働性やコミュニケーションを決して忘れないことが重要であることを知ることができました。終盤には「役に立たないことをどれだけ勉強できるか」「成功・チャンスはきてもらうもの」といった言葉もあり、附設での生活のモチベーションをあげるきっかけと鳴ったように思います。大変多くのことを学ぶことができました。

文：高1 三村 涼真

東 登志夫 先生 (高校30回生/福岡大学筑紫病院 脳神経外科 教授)

11月9日(土) 第13講座 生命科学

血管の中から脳の病気を治療する(脳のカテーテル治療)

講義の感想

脳神経外科のことはあまり詳しく知らなかったのですが、脳卒中について新しく学んだことが多くありました。カテーテル治療の映像を実際に見て、その作業の細かさに驚きました。患者さん一人一人の命を救うことの責任の重さを感じられ、人の命のために力を尽くすところに感動しました。また、生存者や自立可能な人が多くなるように常に最新の機器を導入し、治療方法の検討を行っていることが、使われた機器の変化からよく分かりました。以前は治すことが難しかった病気が現在は治すことができるようになってきていることを私は当然のこのように捉えている部分があり、研究や開発を続けている医師の方の努力があるからであることを再確認しました。大学、大学病院時代から脳を

専門に研究や診療に力を尽くされている姿が印象的で、私も自信を持って働ける大人になりたいと強く感じました。

文：高1 市川 萌々



山家華代 先生 (高校58回生/九州大学病院 眼科)

11月9日(土) 第14講座 医療

医学部に入る前に知ってほしいこと—新米医師の目線から—

講義の感想

育児と仕事の両立に苦勞する女性の視点から、医者という仕事の労働環境や社会的な問題についてお聞きすることができ、同じ女性という立場として共感するところがあり、とても参考になりました。医者の勤務は想像以上にハードなスケジュールであり、育児や家事を抜きにしても、体力・精神力がかなり費やされる仕事であると知りました。そのため、子育てに励む女性医師の多くが休職・離職してしまうそうです。私自身、医者という仕事に対して、学力や地位というような表面的な観点でしか考えたことがありませんでした。しかし、今回の講座を通して、医者に就くまでの膨大な勉強量や実際の仕事の苦勞について知る中で、医者に対する新たな発見・イメージがありました。今まで何となく考えていた自分の進路に対しても、この

ように新たな視点から、多面的に考え直すことができ、とても良い機会になりました。

文：高1 三島 夕佳





黒川 直 (63回生)

東京大学医学部健康総合科学科
公共健康科学専修4年生

大学生活の紹介

こんにちは。附設63回生、東京大学医学部健康総合科学科公共健康科学専修4年の黒川直と申します。この度は同窓会報に寄稿する貴重な機会を頂き、感謝いたします。半年後に卒業を控える私の大学生活を簡単に紹介させていただきます。

◆学業について

私は一浪したのち理科一類で東京大学に入学しました。その後、工学部に進学し、現在の学科に転学しました。2年余計に学ばせてくれた両親にはとても感謝しています。現在の学科では公衆衛生学を中心に勉強しています。新型コロナウイルスに関連して注目されている分野です。

最近では、臨床現場に情報工学技術を活用することをテーマとする研究室で卒業研究に取り組んでいます。私のテーマは「看護の多重課題に関するVR技術を用いた体験型教育支援用アプリケーションの開発と有効性の評価」です。長いですね。これは、看護師を目指す学生の方々向けに、学校では練習しづらいリアルな現場感をVRを使って体験練習してもらうアプリを作って効果を測るというものです。なかなか面白いです。私が中高生の時は、恥ずかしながら医療=医師というイメージしかなかったのですが、世の中いろんな関わり方があるんですね。

◆サークルについて

入学後から2年間、サークルで英語劇をやっていました。元々英語を話せるようになりたくて興味を持ち、体験してみたら楽しくて入会しました。ただ、英語は話せるようになりませんでした。というのも、役者は自分のセリフしか練習しませんし、裏方に至っては英語使いませんからね。入って暫くして気づきましたが、楽しかったので良しとしました。演劇から得たものは多いです。余談ですが、英語はその後海外に2ヶ月滞在するとそこそこ話せるようになりました。受験勉強のおかげですね。

◆最近について

最近は主に授業、読書、運動です。中でも大学の授業は面白いです。その分野のトップの先生が人生を懸けて練り上げた知を体系的に教えてもらえるというのは素晴らしいですね。

◆最後に

「日常性の維持」「自主自律」など、附設で教えてもらった言葉は今でもよく思い出されます。東京にいても仲間や先輩に助けられるのは、これまで附設を培ってきた方々のおかげです。環境に感謝して残りの大学生活を楽しみたいと思います。





廣田 礼 (64回生)
防衛医科大学校

自衛隊医官を目指し、日々勉強、訓練、そして仕事に励む毎日を送っています。

附設同窓会の皆様、こんにちは。64回生の廣田礼と申します。防衛医科大学校の内情はあまり知られていないので、この場をお借りしてお話しさせていただきます。

◆大学1年生～4年生

月曜日から金曜日までは0630にラッパで起床、0800に朝礼、0830～1715まで授業を受けることが義務、仕事です。授業内容は一般の医学部と変わりませんが、訓練や体力検定も授業に含まれています。また特別国家公務員なので夏休みは1か月未満、冬休みや春休みは1週間です。訓練は野外生活、遠泳、富士登山など防衛医大でなければ体験できないことばかりなので、一種のアトラクションとして楽しんでいました。

◆大学5年生～6年生

寮、学校と隣接している病院で臨床実習を行います。実習内容は一般の医学部と同じですが、大きく違うことがあります。それはいつ何時でもいきなり呼び出されることがあることです。通学手段はダッシュ、所要時間は着替え含めて15分かからないです。まるで半分研修医のような生活を送ります。さらに大きく違うのは、臨床実習が終わった6年生後半に、陸上、海上、航空自衛隊のどこに配属されるか、また何の診療科を専攻するかを決めます。そして全員が卒後は自衛隊中央病院または防衛医大病院で初期研修医として働きます。マッチングはありません。と、ざっとこんな感じです。

実際、私はこの学校にとっても向いていると思います。生徒会のような仕事、タイ王国への留学、部活動の主将と様々なことを経験しました。一番印象に残っているのは自衛隊中央観閲式で先頭を歩いたことです。安倍元首相に敬礼しながら行進している様子がニコニコ動画に映ったのはいい思い出です。また附設のある久留米から遠く離れた、埼玉の所沢にある防衛医大ですが、ここには附設会が存在します。現在医官の方も含め20人を超える附設出身者がいます。病院での自己紹介の際に、「出身校は附設です」というとなぜか珍獣を見るかのような眼差しを向けられますが……様々な意味合いにおいて注目される一大勢力となっています。同期や先輩、後輩との交流も多く、附設を卒業してよかったと改めて感じます。拙い、文脈のない文章になってしまいましたが、一風変わった医者である自衛隊医官を目指し、日々勉強、訓練、そして仕事に励む毎日を送っています。





萩野貴明 (64回生)
東京大学教育学部 4年

大学生活は 何をするのも何を学ぶのも自由！

こんにちは。附設64回生、東京大学教育学部4年の萩野貴明と申します。

主に時系列で学生生活を記そうかなと思いますので、もし何か参考になるところがありましたら幸いです。

僕の場合は、2016年に文科三類に進学しました。

入学当初はテニスをしないテニサーに入ったり、大学の授業にもそれほど熱心には参加せずにフラフラしていました。

入学後、半年くらいして、このままじゃやばいなと思い始め、教育系のNPOでボランティアを始めました。これが思いの外ハマってインターン生としてPMやったりして結局計3年ほど関わっていました。

大学3年から、専門を決めなければならないのですが、前述の経験もあって教育学部基礎教育学コースというところに進学しました。一般に教育学部と聞くと、学校教育や授業方法とかがイメージされやすいかなと思うのですが、僕のコースはどちらかというと、思想や哲学のイメージが近いかなと思います。そもそも教育とは？ とか、人間が変化し、成長するってどういうこと？ とか人が異質な他者と共に生きるとは？ またそれに条件があるとすればそれは何か？ みたいな教育と人間に関わることを考えている感じです。

同じ名前の学部でもコースによって、学ぶ内容と手法が結構異なるのは大学に入って知りました。

また、大学3年時は、居酒屋でバイトしながら就職活動も始めました。就職活動は最初は若干斜に構えていて、あまり気乗りしなかったのですが、始めてみると色んな出会いがあったり、自分の視野が広まったりして貴重な時間でした。改めて人との繋がりや出会いの貴重さを感じました。一方で、必要以上に人に流されるのもよくはなく、意志決定は自分がどうありたいかが凄く大事だなとも思いました。

大学4年次は、主には、人材系のベンチャー企業で長期インターンをしたり、後輩のキャリア支援に関わるNPOで活動したり、卒論を書いたりしながら過ごしています。

時系列でざっと大学4年までの活動を記させていただきました。

基本的に、大学生活は何をするのも何を学ぶのも自由なので、腰が重い自分にとって、自ら動いていくことは非常に大事でした。そこから想像してなかった経験ができたりするのかなと思います。

何かしら誰かの参考になるものがありましたら幸いです。





坪山 倫 (68回生)
東京大学教養学部文科一類1年

大学生生活最初の半年間を コロナ禍で過ごして

◆自己紹介

こんにちは。你好。附設高校68回生、現在東京大学教養学部文科一類1年の坪山倫と申します。この度附設同窓会の会報に寄稿させていただく機会を頂戴し、大変嬉しく思います。主に、感染症が拡大する中で例年とは大きく異なる大学生生活1年目(まだ途中ではありませんが)について振り返りながらお話出来ればと思います。

◆コロナ禍での半年間

今年度の大学生生活は波乱の幕開けでした。入学式や新入生歓迎合宿をはじめとする4月の大学行事はことごとく中止となり、月の半ばから始まる授業に関しても1年生は全面オンラインとなり、先輩方の尽力もあってクラスのLINEグループは出来たものの、感染リスクを考えると実際に会うことは叶わず(執筆時は10月の頭ですがクラスメイトにはまだ数名しか会っていません……)、自分も3月末に一度上京していましたが、結局1週間ほどで帰省し、暫くの間は福岡の自宅で講義を受けることになりました(その後6月半ばに再上京しました)。入学試験以来駒場キャンパスに足を運んだのは3月末の健康診断の時くらいで、自分は果たして大学生になれたのだろうか……?としばしば自問するような、想像していたキャンパスライフとは程遠く、何ら実感の無い「大学デビュー」でした。

ただ、その中でも自分は比較的足掻けた方の人間だったと思っています。サークルや部活の新歓活動もオンラインのものに制限される中で、興味を持った団体の新歓には積極的に参加し、東大の先輩方と出来るだけ多くお話する機会を作れるよう努めました。何事も、そして特に将来の自分への影響が大きいと思われる大学生生活なんかはスタートが肝腎だと思っていたので、あとになって後悔しないようにと必死でした。ただそのおかげで実際に自分が入ったかったような環境に飛び込むことができたので、4月の自分のことは褒めてやりたいと思っています。ここからは、そんな波乱の4月に自分が所属を決めた2つのコミュニティについて簡単に紹介させていただきます。1つは、附設高校出身の高山博教授(23回生)が主催している通称「高山ゼミ」で、主に国際政治や外国の国内政治の分析・議論を行なっているゼミです。1年生でゼミに参加できること自体非常に貴重で有難いことだと思うのですが、何よりも周りの先輩方や同期生の意識が非常に高く、知識や思考力も抜群なので、時々圧倒されながらも刺激を頂戴している次第です。自分自身は前期ではブラジルのボルソナロ政権に焦点を当てたのですが、英語文献はもとよりポルトガル語文献にも目を通しながら、政治制度や経済状況が日本とは大きく異なる国に関して深くまで知れたのは面白かったですし、とても勉強になりました。2つ目のコミュニティは、HCAP Tokyoというサークルです。HCAPというのが米国ハーバード大に所属する学生団体で、その日本支部的な存在が、自分の所属している組織です。例年は1月にボストンへ招待され3月には反対にハーバード生を東京へ招くのですが、今年は両方も不可能になったため、現在自分たちは何をすべきかを模索している段階です……。1年生だけ、かつ少人数のサークルなので親交が深まる一方で議論も白熱し、これまた面白いバックグラウンドを持った人ばかりなので非常に楽しく活動できています。

東大の授業に関しても、Zoomを利用したオンライン講義であるが故に「いわゆる大学の講義ではない」感否めませんが、基本的にはとても興味深く勉強になる授業ばかりで、また「顔出し」がない場合だとどんな格好でも受講できますし、何より朝に減法弱い自分にとっては、起床から最短2分で「教室」に入れるというのは大変画期的で有難いシステムです。9月末から開始した秋学期では、第二外国語と体育の授業が隔週で対面となるため、自分も来たる10月8日ようやくキャンパスライフの第一歩を踏み出し、クラスメイト全員ともお初にお目にかかる予定です。また、自分は受験期には文1→東大法→外務省という「いわゆる」なコースを所望していましたが、実際大学に入学して以降、色々な先輩や同輩とお話をしたり、哲学や建築、文化人類学や地球惑星環境学など過去の自分がほとんど触れてこなかったような分野の講義を受けたりする中でいろんな方面に興味を拡散し、その一方で法学の授業には現時点であまり興味をかき立てられない為、進学選択については迷いに迷っている今日この頃です。

最後に、附設生との繋がりについても言及させていただきます。68回生の東京組では、自分と同じように4月に上京するも一旦帰省したか、あるいはそもそも春学期は九州で大人しくしていたような人が多数派だったように思います。現在では多くの大学で「一部対面授業」の方針が採られているため、多くの人が上京しているみたいです。自分も、東大生はもちろん、東京圏の他大学に進学した友人たちと時々ご飯に行ったり、彼らの自宅に泊まりに行ったりするなど、今でも非常に親しくしています。恐らく多くの上京勢が互いに附設生との繋がりを失っていないはずなので、そこの所はどうかご安心ください。

今年度の1年生は総じて、異様な大学生生活の幕開けを経験したと思われる。自分もその一人ですし、もちろん受験期や合格発表の時点ではまさかこんなことになるとは思っていませんでした。人に会いづらい、だったり、海外旅行に行けないと言った不満も沢山ある中ですが、そのような視界の制限があるからこそ、これまで広い視界の隅でばやけて良く見えていなかったものがはっきり見えてくることもあるでしょうし、我々自身もオンライン授業やリモートワークといった道具を用いて、不透明な現実に向き合っていく必要がなくなるかもしれません。自分自身、学問的には入学以後大きく視野を広げてもらっているので、これからも様々なモノや人に触れて刺激を受けながら、日々精進していこうと思います。





富重紀貴 (66回生)

九州大学工学部電気情報工学科
電気電子工学課程3年

これまでの生活とこれから

こんにちは。九州大学工学部電気情報工学科で電気電子工学を専攻している、現在学部3年の富重紀貴（よしたか）と申します。専攻と言っても研究室配属は来年度からで、未だその内容は多岐にわたります。附設では中学44回生、高校66回生で、附設中高で最後となる男子のみのクラスが存在した学年でした。このたびはこのような貴重な機会をいただきましたので、僭越ながら今の大学の様子をお伝えしようと思います。

すでにお聞き及びのこととは存じますが、今年は新型コロナウイルスの影響により、大学生の生活も昨年から一変しました。大学や学部により違いはありますが、講義は基本的にオンライン講義となり、サークル活動も新歓活動含め一切が禁止となりました。私の場合受ける講義は実験も含め全てオンラインであり、所属する男声合唱団も一切の活動が禁止となった為、3月末から9月末まで、大学に足を運ぶことは一度もありませんでした。

ここまで暗い話のようになってしまいましたが、しかしながら、私個人の感想ではありますが、悪いことばかりではなかったようにも思います。

例えば講義についてお話させていただくと、例年までは試験時に教科書などを持ち込めない講義が多く、そのせいか試験に出る内容は教科書に書かれている単語や問題がそのまま出されることが多かったのですが、今年は試験もオンラインとなりカンニングし放題という理由から、教科書の問題を少し応用させて出題する教員が少し増えた印象を受けました。例年までの試験内容と今年の内容のどちらが良いかははっきりと判断することは成績の悪い私にはできませんが、こうやって新しい試みが為されるのは悪くないのではないかと思います。

また、朝に弱く遅刻ばかりしている私にとって、オンライン講義はとても嬉しいものでした。二度寝してしまっただけで起きるのが講義開始5分前になったとしても、余裕をもって遅刻を回避することができるからです。講義間の教室移動にかかっていた時間などを家事や他の事に割いたりと有効

活用できるので、無駄な時間はむしろ減ったようにも感じます。

世間でもこれからをどのように過ごしていくかの試行錯誤が続いていますが、大学もまた、今までの在り方が問われていると感じます。この変化の良し悪しはまだ分かりませんが、これを機に自分自身もまた良い方向へと変わろうとするくらいの気概を持って、これからの日々を過ごしていこうと思います。



附設合格状況

附設高等学校進路指導部長 **城戸 清** (23回生)

附設高等学校 大学入学試験合格状況

◆国立現役合格数は過去最高

2020年度は、国公立大学に現役生が128名(防衛医科大学校8名、防衛大学校1名、産業医科大学3名を含む)、浪人生66名(防衛医科4名、気象大学校2名、産業医科4名を含む)が合格しました。合計194名は昨年の191名から3名増です。防衛医科などを除く国公立の現役生は116名で、昨年より9名上回って過去最高でした。

東京大学が現役生22名、浪人生9名で合計31名、九州大学が現役生35名、浪人生9名で合計44名、京都大学が現役生9名、浪人生5名で合計14名、長崎大学が現役生7名、浪人生6名で合計13名、熊本大学が現役生6名、浪人生3名で合計9名、大阪大学が現役生6名、浪人生1名で合計7名、などが主なものです。

東京大学の現役生は21名(他に推薦1名)で、昨年の36名から15名減でした。これは、理Ⅲを除く受験者が42名と、昨年の60名から20名近く減ったことと、合格率が昨年より少し下がったためです。理系は難化した数学のため合格率が下がり、文系は数学で差がつかずに、文系科目を得意とする女子の合格率が高くなりました。一方、京都大学は現役生の合格率が高く、この10年では7年前の17名に次いで多い合格数でした。

◆医学部医学科現役進学が50名

国公立大学の医学部医学科は現役生47名、浪人生25名で合計72名(産業医科7名を含む)、昨年より6名増でした。現役生5名増で、浪人生1名増ですが昨年は5名減で、浪人生は減少傾向が続き、医学科も他学部同様、6割が現役進学です。九州大学26名、長崎大学11名、熊本大学7名、山口大学と鹿児島大学4名、宮崎大学2名、佐賀大学1名、それと産業医科7名で、九州山口が62名です。大阪大学3名、北海道大学2名のほか、金沢、山梨、岐阜、岡山、広島に1名ずつで、残念ながら今年度も、東大か京大の合格者がいませんでした。次年度で期待します。なお、国公立日程別では、前期・推薦が60名で昨年より12名増、後期が5名で4名減、産業医科は2名減で、前期・推薦の大幅増加が目立ちます。

本校の卒業生は約200名で、4分の1の約50名が文系、残り約150名が理系、その半数が医学部医学科志望というのが例年の傾向です。国公立前期に出願した現役生は、一昨年は60名弱と少なく、昨年は70名強に戻り、今年は80名強と増加しました。男子の合格率が高かった昨年と違って、今年は男女とも前期の合格率はほぼ5割でした。しかし女子は、推薦・後期(産業医含む)での合格者も多

く、進学率は7割でした。高いレベルの理数勝負となる九大では、現役女子合格者は2年連続0名でしたが、昨年は5名、今年は7名と合格者が増加しています。今春から面接開始のため2段階選抜が定員2・5倍となり少数激戦でしたが、実力を発揮しました。

将来にわたって学ぶ向学心を持っていて、労を厭わず他人の役に立つ仕事をしたいとの希望に加え、保護者に医療関係者が多いことから、医学科希望が多いのは自然なことです。この10年分の国公立医学部(産業医科・自治医科を除く)の合格数は、現役生324名、浪人生291名と平均30名前後で、現役合格率が上がってきています。今年の現役生は、国公立44名、産業医科3名、防衛医科3名が進学し、ちょうど50名が進学しました。医学部の志願者減(前年比87%)に加え、最後のセンター試験の影響で現役志向が高い、という背景があったとはいえ、昨年同様、「まじめにコツコツ頑張る」女子生徒が、中学共学化の2年目で、過去最高の現役進学に大いに貢献しました。

◆校内模試が進路指導の要

高2までは日々の学習を年間5回の定期テストで確認しますが、高3と浪人生希望者は年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は4割で、4回平均5割以上だと東京大学、京都大学、九大医学部などの難関大学学部にも、東大理系以外は、4割5分以上で合格できます。

問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。高3の授業がなくても、問題作成と採点での指導です。高3になったときに実力が付いているよう、高2以下の生徒の学習指導に生かしていきます。

◆今年も全力で取り組む覚悟です

規律を重んじる厳しさに加え、温かな心と情熱を持った、学年主任を中心とする指導が、普段以上にセンター試験で実力を発揮し、模試の過去のデータを上回って、合格を勝ち取った生徒が多く見られました。3年間・6年間の生徒、先生方、保護者の信頼関係の上に築かれた結果でした。

大学入学共通テストが始まりますが、英語民間試験利用も記述問題導入も見送られて、センター試験とは大差がないようです。昨

年の東京大学をはじめとする飛躍的な結果、今年の過去最高の医学部現役進学を引き継いで、志高く努力を続けてほしいと思います。授業と特講で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願ひ、全力で指導に取り組む覚悟です。

表Ⅰ 国公立大学合格者数 (単位:人)

平成31年度		令和2年度	
東京	50	東京	31
九州	41	九州	44
京都	11	京都	14
大阪	7	長崎	13
佐賀	7	熊本	9
山口	5	大阪	7
長崎	5	鹿児島	6
熊本	4	山口	5
鹿児島	4	東京工	4
その他	57	その他	61
合計	191	合計	194

国公立大学の「その他」は、大学校、自治医科、産業医科を含む

表Ⅱ 私立大学合格者数 (単位:人)

平成31年度		令和2年度	
慶應義塾	27	早稲田	23
早稲田	26	慶應義塾	22
東京理科	23	立命館	21
福岡	15	東京理科	20
立命館	14	福岡	18
中央	13	久留米	16
同志社	11	中央	15
明治	9	明治	10
近畿	9	同志社	9
その他	53	その他	95
合計	200	合計	249

私立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含まない

表Ⅲ 医学部医学科合格者数 (単位:人)

平成31年度		令和2年度	
九州	25	九州	26
佐賀	6	長崎	11
山口	4	熊本	7
熊本	4	山口	4
長崎	3	鹿児島	4
鹿児島	3	大阪	3
東北	2	北海道	2
大阪	2	宮崎	2
大分	1	広島	1
宮崎	1	佐賀	1
その他	15	その他	11
国公立計	66	国公立計	72
福岡	9	久留米	16
久留米	8	福岡	7
慶應義塾	2	慶應義塾	1
その他	10	その他	29
私立計	29	私立計	53
防衛医科	6	防衛医科	12
合計	101	合計	137

国公立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含む

附設高校の歴史を守り、新たな一ページを加え、期待に沿えるよう頑張っています。

生徒会長 小柳俊輔 (69回生)

こんにちは、附設高校69回生生徒会長を務めさせていただきました小柳俊輔です。これまでに附設を卒業された68代、計10000名以上もの先輩方にこの文章が届けられることには大変身が引き締まる思いもしますが、在校生だからこそ分かる「附設の今」をお伝えしたいと思います。

今年の学校の様相の変化としてはペットボトル飲料の発売開始など様々ありますが、やはり新型コロナウイルスCOVID-19に関する事柄が最も大きいでしょう。

例年と異なる状況となったのは三月以降でした。度重なる休校に端を発し、第五回定期の二週間もの延期や合唱練習の中止、そしてついに男く祭までもが中止という運びになってしまいました。三年生にとって集大成となるはずだった文化祭がこういった形で無くなってしまったことは、ありきたりな言い方かもしれませんが、言葉に表せないほど無念であり自分たちの非力さを思い知らされました。今振り返ってみると、修学旅行である北海道でのスキー合宿にギリギリ行くことができたのは唯一の救いだったのかもしれない。

これまでマイナス面ばかり申し上げてきましたが、決してそんなことはありません。授業は五月末から再開され、カリキュラムの大きな遅れもありましたが、

三年生の定期テストが一度だけとなる変更や夏休みの大幅な短縮などにより、今ではほぼその学習の遅れを感じられないほどになっています。「夏休みは受験の天王山」と言われていますが、実際、休校期間があまりにも長かったため、従来の夏休みよりも長く自習に打ち込めており、この事もプラスに働いているように感じています。加えて、その時期より先生方が主体となり、Googleクラスルームの利用が始まり、生徒教師間のオンライン上での繋がりも生まれました。これまで対面でしか行われていなかった教材や課題のやり取り・連絡が効率化され、ますます学習環境が整ってきたと言えます。また幸いなことに、二年生の頑張りのお蔭で、無事に高校最後の体育祭は執り行われ、徐々に日常を取り戻しつつあります。

僕たち生徒や先生方は、共に毎日の検温、アルコール消毒、マスク着用など、新しい生活様式に則りつつも、これまで通りの近い形での生活を送っています。ただどうしても、全く同じというわけにはいかず、特殊な環境であることは明らかです。さらに先行きは不透明なままです。

これらの苦難を一丸となって乗り越えることで、附設高校の歴史を守り伝えるだけでなく、そこに新たな一ページを加え、先輩方の期待に沿えるよう頑張っています。

附設の文化祭が、新たな歴史を積み重ねていくことを切に願っております。

文化祭実行委員長 **土橋 乃空** (69回生)

初めまして、第50回文化祭実行委員長を務めておりました、69回生の土橋乃空です。ご存知の方も多いかと思いますが、2020年4月29日、5月1日に開催される予定だった、久留米大学附設高等学校第50回文化祭「Day Break」は中止となりました。今回はそこに至るまでの経緯と、私自身が今回の中止に際して感じたことを述べさせていただきます。今年度の文化祭のテーマである「Day Break」には、“日常を破壊”してくれるような新たな“夜明け”という意味が込められていました。具体的な今年度の取り組みを運営サイド(「内」からの視点)と実際の活動(「外」から見えるであろう視点)の二つの側面から紹介します。運営サイドが一番注力したことは、組織構造の再編です。従来の文化祭では、多種多様な役割を持ったP(プロジェクトチームの略称、講演P・ライブP等活動単位ごとに様々なPが組織されています。)が存在していたものの、その数の多さと差別化しきれない各Pの役割という2点から、附設生が持っているポテンシャルを発揮しきれないのではないかと考えました。そこで、既存の枠組みを尊重しながら、より見通しのつくわかりやすい組織構造にすることで、生徒各人のニーズにあった活動を提供することを目標にしました。具体的には、20を超えるPを4つの課に再編。文化委員⇔課長⇔P長と三者が協力することによって、組織の役割を明確化、文化祭が好きで好きではない内部進学高3生はもちろん、文化祭に馴染みの薄い下級生や外部生も柔軟に活動に対応できるよう心がけました。実際の活動において注力したことは、企画の意義性です。文化祭とは、ここまでの49回から50回目へとスライドするものではなく、49回の蓄積の上に新たな一年が積み重なって50回目がようやく誕生するのです。これまでの蓄積を重んじながらも、ただの旧態依然にならないよう、企画構想の段階から、「なぜその企画を行うのか」「その企画から何を発信できるのか」という点に拘って活動してきました。例えば、パンフP。情報量が多いパンフ、デザイン性に優れたパンフ、様々な物があるかとは思いますが、文化祭のパンフに求められる最大の役割は、見やすいパンフでありながら必要十分な情報を掲載し、それでいてデザインも優れたものということになります。パンフ以外もそれぞれの企画において、各企画がもつ役割を熟考しながら活動を進めてまいりました。特色ある活動といえばa、文化祭50周年を記念した、「久留米大学附設高等学校男く祭50周年記念誌 LEGACY」の制作でしょう。文化委員の中で是非とも歴史の節目を彩る企画をしようと話している中で、誕生したのがこの記念誌です。文化委員に加えて記念事業チームを結成し、一年弱をかけて作成してまいりました。50回の文

化祭の歴史から始まり、歴代の文化委員の方に取材に伺ったり、卒業生に文化祭の思い出を寄稿していただいたり、一冊で附設の文化祭史の充実ぶりを感じられる作品になったのではないかと自負しております。他にも、様々な活動において文化祭に対する圧倒的な熱意と多くの生徒の協力によって、着実に文化祭に向けて歩を進めておりました。しかし、2020年に入ると、状況が一変します。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めたのです。3月初旬、全国的に臨時休校が行われました。附設もすぐに2週間に及ぶ休校を決定。日増しに厳しくなるスケジュールと格闘しながら、なんとか活動しておりました。そんな中、3月27日、先生方が文化委員・課長・P長を集合させました。生徒自治が原則である附設の文化祭に於いて、先生方が集合をわざわざかける、そんな事態ですからそこで告げられるであろうことはもちろん想定していました。それでも、生徒指導部長・生徒会顧問から、文化祭縮小(落合陽一氏を招いた講演中止、校内ライブ企画の中止、コーラス大会縮小等々)を告げられた瞬間、私はもちろん多くの生徒がそして先生方までもが涙を流していたのは今でも忘れられません。その後、なんとか縮小案を作成し、自宅待機指示が出てはリモートワークを行い、外出できる日をなんとか見つけながら登校する日々が一週間ほど続きました。そんな努力も虚しく状況は悪化、4月4日朝方、生徒会顧問の先生と私で電話をし、本校での文化祭開催を正式に中止と決定。併せて、附設も当面の休校及び登校禁止を余儀なくされました。そこからは、連日リモートでの会議を、時には10時間にも及びながら開催し、文化祭の引き継ぎ作業やWEBページの拡張を検討。できる限り文化祭の足跡をWEBに掲載し、文化祭活動に取り組むであろう、未来の附設生や他校生にも役に立つものを提供できるよう準備を重ねました。そこまでの活動は、現在WEBページで掲載中です。WEBページ内のQRコードからご覧頂けます(附設のHPや、文化祭公式SNSからもアクセス可能です)。上記で紹介した、記念誌やパンフも掲載しておりますので、是非ご覧ください。WEBページの準備や、引き継ぎを完了させ、4月20日には、第50回文化祭に関わる全活動を終了しました。さて、ここからは、文化祭活動、そして今回の中止に際する、私個人の感想です。先にも触れましたが、本校での文化祭中止が決定して以降、WEBでの活動公開に切り替えました。しかし、そのような決定に、私自身は心から納得することはできませんでした。というのも、本来であれば、学校が再開してから、映像や作品を全て完成させて、オンライン文化祭を開催する、くらいのことはしたかったというのが本音です(実際に同時期に文化

祭開催予定だった他校ではオンライン上での文化祭を実行した学校もあります。実行委員長として、50回目の文化祭は中止になったと、私が末代まで馬鹿にされようが構いませんが、ここまで必死に活動してきたメンバーの活動を中断させるしかなかったことには、未だに後悔の念が募ります。一方で、WEBでの活動をするにせよ、既存の活動報告に止まらざるを得ない事情もありました。というのも、ご存知の通り文化祭を終えた高3生は、特講も始まり、学年は受験一色になります。学校が再開したところで、その時にはもうGWも明けていますから、さあ文化祭も再開だというわけにはいかなかったのです。そんな訳で、オンライン文化祭の野望は胸に秘めたまま、自粛期間はなんとか心を勉強に向けてきたのですが、学校再開が近づくにつれて、私の中で一つの疑念が深まります。なぜ、「文化祭をする（していた）」のだろうか。学校再開の日、その朝に開かれた学年集会、私はどこかで、誰かが文化祭に触れるのではなかろうか、私の疑念を払拭してくれるのではなかろうか、そんな期待を胸に臨席していました。しかし、先生方は一言も文化祭に触れることはありませんでした。二ヶ月前、最後に学校に登校した時、誰もが文化祭のことしか考えていなかった、活気あふれるあの雰囲気を誰もが忘れてしまったのだろうか。どこか、自分の気持ちが周囲から取り残されてしまったことに気づかされました。それでも、学年は受験へと向かっていきます。それ以来、私はずっと「文化祭をする」ことの意義性を追求してきました。以下は自分なりの答えです。卒業なさった先輩方は、「文化祭をする」時、どんな目的を抱いていたでしょうか。まだ、文化祭を経験していない後輩の皆さんも、どんな目的を抱くだろうか、想像してください。もちろん、ここでの目的の定義は、「コーラス大会で優勝！」や「バザー売り上げ1位！」のような「文化祭」（というイベントやその中での取り組みを）を（実行）「する」（上での）目的を指しているわけではありません。「文化祭をする」（という経験を自分の人生に配置する）ことを通してどんな自分になりたいのか、どのように自分に還元するのか、ということです。実のところ、「文化祭をする」ことの目的を追求してきたのは今回が初めてではありません。しばしば文化委員と課長たちと口にする話題ではありました。ですから、自分の中で淡い答えはコロナが流行する前から持ち合わせていました。具体例を述べるのであれば、太鼓であれば最後の音を叩き終えた時、バザーであれば最後のお客様を見送った時、その瞬間に、「文化祭をする」ことの価値を理解した、今までの自分から、「文化祭をする」ことに成功した自分への飛躍を感じられる、この飛躍こそが文化祭の最大の目的だと考えています（この書き方だと、ほんやりと活動して偶然の産物を求めるのか、とお叱りを受けそうですが、あくまでこの飛躍は、「リーダーシップを学びたい」「自分の作品でお客様を楽しませたい」等々、活動の中での主題を持って誠心誠意取り組むことで得られるものでしょう）。さて、私の場合はどうかと言いますと、全日程終了後、シティプラザのステージで、全て

の発表を終えた附設生を見て、その充足感に溢れているであろう表情から、新たな自分への飛躍を、まさに新たな自分への「Day Break」を果たすことを期待しながら全身全霊で活動してきました。ご存知の通り、文化祭は開催されなかった訳ですが。それでも、その飛躍を諦められない私は、文化祭が開催されるはずだった5月1日（もちろん、コロナ対策には万全を期すため、家族の運転する車からではありますが）、シティプラザを見に行きました。職員の方の気配すら感じられない、明かりすら落としたシティプラザからは、そのような飛躍はもちろん得られず、なんとも言い表せない無力感に包まれるだけでした。とは言え、その無力感からこそ、「文化祭をする」ことに成功したことによる新たな自己への飛躍こそが、そこでの最大の目的だったのだらうと改めて感じさせられました。と、ここまで、つらつらと、悔しさを述べてきました。だからと言って、私自身、そして誰よりも文化祭に向き合ってきた（と言っていいであろう）69回生にとって、文化祭が無駄だったとは微塵も思いません。むしろ、私たちは幸せ者だと言っていいのではないのでしょうか。確かに、私たちは新たな自分へと越境することはできませんでした。「文化祭をする」ことの意義性を身につけるはずであったその瞬間は、私たちが文化祭に向き合っていた頃から先に進むことなく、永遠に私たちの心の中に残り続けるでしょう。しかし、だからこそ、「文化祭をする」ことを体得できなかった自分として、その無限の可能性を想像することができる訳です。「文化祭をする」ことの意義性を体得する直前で急速に動かなくなった私たちの記憶は、やりたいことをできる幸せ、思う通りになかなか事が運ばない世の中の理不尽さ、様々な要因を孕みながら、私たちの人生で一つのテーマになってくれるでしょう。合格体験記や同窓会報を読んでいると、多くの先輩方が文化祭の思い出を、大事なものとして挙げられます。先輩方は、「文化祭をする」ことに成功した自己の獲得を思う存分堪能しておられるのでしょう。我々は、確かに「文化祭をする」自己を得ることはできなかった。しかし、先輩方とは違うアプローチではあるものの、まさに「文化祭をする」直前にあった自分の気持ちの高揚感からその先の飛躍を想像することで、その価値を思う存分味わうことができるはずで、これからの文化祭を担う後輩たちへ。文化祭に取り組む時、忙しいとは思いますが、是非とも何故「文化祭をする」のか考えてみてください。文化祭が開催されようとされまいと、「文化祭をする」ことに成功しようと、必死にもがいたその経験が、かけがえのないものになる、当人の人生を支えてくれるものになるということを、先に社会に旅立つ私たちが今後の人生で示していきます。最後になりますが、附設の文化祭が、50年の重みを引き受けながらも、決して受け身になることなく、新たな歴史を積み重ねていくことを、毎年のように新たな「Day Break」を見せてくれることを切に願っております。

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

保存版

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

「HPの新しいドメインはhttp://fusetsu-dosokai.com/です」

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことができます。**ログインID：旧ログインIDと同じ****パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字**

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問合わせ」メールフォームからご連絡ください。

- 1** ホームページのWEB名簿
ボタンをクリックして下さい。



- 4** ご自身の登録情報の確認と変更
開示の可否はご自身でお決めください。



- 2** 「会員ID／パスワード」を入力後、
ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと
生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、
すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に
変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった
場合は、登録済のメールアドレスと生年月
日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に
守られますが、各会員におかれましても、ご
自身のID／パスワードは確実に保管してい
ただきますようお願いいたします。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いた
だきますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、
ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同
期のみ公開」「非開示」の設定ができます。

- 3** 会員専用サイトでは主に以下のような
機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲
覧することができます。

- 5** WEB版同窓会名簿の閲覧
卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用している
SNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。

メールアドレスをお持ちでない方は、
FAXやお電話で代理入力しますので
同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257

2020年（令和2年）12月吉日

附設高校同窓会会員の皆様へ

久留米大学附設高等学校同窓会
会長 吉田清隆

母校の新型コロナ対応に向けた 寄付のお願い

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。そして、この世界的な難局にご尽力されている方々に感謝申し上げます。

コロナ禍の中で例年のような支部総会と懇親会は開催できませんでしたが、福岡(31回生)と東京(37回生)の幹事団と議論した結果、両支部総会のパンフレット発行に企画していた記事を含めて、3誌を合体した形での会報を発行することにしました。

そして、コロナ禍にある今年の特別対応として、いただいた広告料の大半を附設高等学校中学校の教育振興基金へ寄付することにより、母校のコロナ対策を支援することにしました。ご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。これまで幹事団を通じて個人やグループでの寄付をお願いしてきましたが、この場をお借りして、同窓会会員の皆様にも広くご案内し、同基金への寄付をお願いする次第です。

母校では、春の臨時休校に始まり、開校時の時差通学に伴う臨時バス運行や業者による校内トイレ清掃を行い、最近ではタブレット端末での遠隔授業が実施できる体制を整えています。

何とぞ寄付への主旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

1) 銀行からの振込方法

振込先：福岡銀行 久留米営業部 普通預金 1722400
みずほ銀行 久留米支店 普通預金 1662333

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

2) 郵便局からの振込方法

振込先：01720-9-45035

口座名：久留米大学附設高等学校中学校教育振興基金

お願い：お名前に「附設太郎23回生」のように卒業回生を記入願います。

3) インターネットからの申し込み方法

附設高校ホームページ⇒教育振興基金⇒久留米大学へのご支援をお考えの皆様へ⇒

インターネットからの申し込み（個人の方のみ）⇒寄付をする⇒寄付の種類⇒

16番「附設高等学校・中学校教育振興基金」⇒メールアドレス登録⇒寄付を開始⇒案内に従い入力。

注意事項：手続きの最後に確認事項として、寄付者の属性の質問があります。質問3（必須）では「**附設卒業生**」を選択、質問4では「**附設高等学校**」を選択、質問5では「**高校回生番号**」を入力することで、附設同窓生による寄付であることが明確になります（右図をご参照ください）。

クレジットカード払い、コンビニエンスストア、銀行支払い（Pay easy）ができます。

3 本学とのご関係につきまして、当ではまるものをご選択ください。	附設卒業生
4 卒業生、在学生、在校生の方は学校名をご選択ください。	附設高等学校
5 卒業生、在学生の方は学部と学籍番号、附設生については入学回数または卒業回数の数字のみをご入力ください	23

4) 問合せ先 久留米大学附設高等学校・中学校事務室 電話 0942(44)2222

以上

2020年度 広 告

カラー広告	P60	21～30回生	P81
回生有志広告	P64	31～40回生	P95
1～20回生	P73	41回生～	P118

寄付金ならびに広告協賛ご協力への御礼

同窓会会長	吉田清隆	(23回生)
同窓会顧問(同窓会前会長)	高橋友作	(19回生)
同窓会副会長(広報担当)	砂場泰浩	(21回生)
同窓会副会長(IT情報・名簿担当)	中村和徳	(27回生)
同窓会副会長(広告担当)	勝連治	(33回生)
福岡支部長	実藤光二郎	(26回生)
東京支部長	栗木康幸	(21回生)
東京支部顧問(前東京支部長)	小田恵介	(19回生)
福岡支部総会幹事長	森田昇	(31回生)
東京支部総会幹事長	丸山剛弘	(37回生)

本年度は、コロナ感染症拡大という未曾有の環境下、例年8月に実施している同窓会報発行が困難となり、年の瀬も押しせまってまいりました12月での発行となりましたが、例年同様、多くの同窓生・関係者の皆様より寄付金と広告協賛のご協力を賜りましたこと、誠に有難うございます。

本年度も昨年度に引き続き、同窓会活動の全国的な拡がり・活性化と効率化を目指して、本部・福岡支部・東京支部が協力・連携して広告協賛の一元化を進めて参りました。本趣旨にご賛同賜り、コロナ禍で大変厳しい状況にも関わらず、国内外の多数の同窓生・関係者の皆様から、同窓会への寄付金と同窓会報への広告協賛を頂戴することが出来ました。

また、本年度の広告募集活動に際しては、母校支援の観点で、久留米大学が運営する「附設高等学校・中学校教育振興基金」への寄付も同時にご案内させて頂きましたが、そちらにも多数の同窓生・関係者の皆様にご支援頂き、誠に有難うございました。

改めまして、皆様からのご厚誼に篤く御礼申し上げますと共に、皆様の更なるご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

同窓会への寄付金寄贈者のご芳名

ENEOS株式会社 同窓生 様

九州大学医歯薬系学部、九州大学病院 卒業生有志一同 様

ユニ建築設計 有限会社 様

37回生有志一同 様

(五十音順)

●同窓会室の紹介●

整備、拡充された、同窓会室・後援会室

同窓会副会長 砂場 泰 浩 (21回生)

1号館1階の旧事務室の後ろに、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。同窓生OBが在校生に色々アドバイスできる場にもなるでしょう。母校に来られた折には、是非お立ち寄りください。



同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト▶



同窓会からのお知らせ

**同窓会に対する各種問い合わせは下記のいずれかをお願いします
(HPのURLが変わりました)**

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257 【メール】<http://fusetsu-dosokai.com/contact>
 【同窓会ホームページ】<http://fusetsu-dosokai.com/> 【WEB名簿】<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>
 【同期の回生代表世話人】P.38ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせ下さい。世話人の同意を条件に回答を差し上げます。

※住所変更などの連絡はメールのほか、電話でもFAXでも受け付けしております。(本文P.57ご参照)
 ※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡下さい。

◆編集後記

吉田清隆さんが同窓会会長に新たに就任されました。コロナ禍という未曾有の状況の中での就任となりました。福岡支部総会では中止となり、本部総会も規模を縮小し、東京支部総会ではWEBでの開催という異例の事態でした。今まで福岡支部総会及び東京支部総会でお配りしていただいたパンフレットは発行せず、会報だけの発行となりました。こうした困難の中でも福岡・東京の両総会幹事学年生(31回生と37回生)の皆さんが、同時に協力し合って広告募集を行った結果、多くの広告協賛を頂くことができました。広告掲載にご協力頂きました皆様、幹事学年の皆様、回生代表世話人の方々に厚くお礼申し上げます。広告費につきましては、母校のコロナ対策の一部として協力をさせてもらう予定でおります。会報につきまして、卒業生の同窓会会員、母校の先生方、在校生および保護者の皆様にもご理解を深めて頂きたく、内容の更なる充実に努めて参りたいと思いますので、今後ともご協力ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



広報委員会
砂場泰浩(21回生)

最後になりますが、本会報に御寄稿頂きました皆様、印刷にご協力頂いた糸川印刷様(社長高尾野健様(35回生)、岩佐直樹様)に改めて厚くお礼申し上げます。

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会：砂場泰浩(21)・小田恵介(19)・橋本和幸(20)・安部政信(20)・中村尚昭(22)・岸 哲司(22)・古賀善彦(23)・中村和徳(27)・高木裕康(28)・勝連 治(33)・大津良太(51)

広告募集委員会：中村和徳(27)・小田恵介(19)・岸 哲司(22)・実藤光二郎(26)・森田 昇(31)・高尾野健(35)・丸山剛弘(37)

協 力：城戸清先生(23)・藤吉博範先生(29)・中村昌子(事務局)・長野佐知子(メディア総研)